

# 大阪大学総合学術博物館 年報 2020

大阪大学総合学術博物館  
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2020



## はじめに

2020年度の活動の概要『大阪大学総合学術博物館年報2020』ここに刊行し、皆様に公開できますことを嬉しく思います。

2020年度も定例の展覧会として、特別展、夏期特集展覧会、企画展を予定しておりましたが、この1年間は年度当初より新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた事業の多くが影響を受けました。第14回特別展として「なんやこりゃ EXPO'70-大阪万博の記憶とアート」展を当初は4月24日から開催予定にしておりましたが、このために開会延期され、オープンできたのは緊急事態宣言解除後の6月22日でした。また平常通りの開館はできず、入場者数の制限や開館時間短縮を行わねばなりません。その後も計画しておりました各種展覧会や公開講座などは、オンライン開催かそうでなければ、中止や延期など余儀なくされて行きました。基本的にこの1年間はコロナ禍での館運営を強いられることになり、従来通りの活動ができなかったことを残念に思っております。

それでも、大学博物館としてできることは着実に進めることができました。今まであまり進んでいなかった館のデジタル化を進め、特別展や企画展はもとより、常設展示のデジタル化を始めました。すでに一部はウェブサイトの方に掲載されていますので、そちらにて皆様にお目にかかれますのを楽しみにしております。また、これも懸案だったのですが、当館広報強化の一環として、ニューズレター「まちかねミュージアム」を創刊致しました。大学博物館という大学でありつつ博物館でもある、この両者を兼ね備えた魅力ある学術文化の施設をより良く理解して頂くためのコミュニケーションの媒体と考えております。

現在もまだ新型コロナウイルスの状況は先行きが不透明です。キャンパスにも学生はまばらで、当館も以前の賑わいを取り戻すにはまだ少し時間がかかるかも知れません。ですがこの1年はじっくりと物事の本質について考える時間が与えられていた一年であったように思います。それはすぐには現実の変化と結びつくことはありませんが、ゆっくりと地殻変動のように私たちの思考や行動を変えて行く、その種のものであるように思われます。当館もまたこの1年の経験をこれからの大学博物館の新しい姿、そして地域社会との新しい繋がりを見出していくための準備期間であったと考えて参りたいと思います。

これからも着実に努力をして参りたいと思いますので、今後ともご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2021年10月

大阪大学総合学術博物館長

永田 靖



# 目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館 第14回特別展 なんやこりゃ EXPO'70- 大阪万博の記憶とアート	
・ 概要	6
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐)	9
2. 展覧会報告Ⅱ	15
大阪大学総合学術博物館 第23回企画展 CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国	
・ 概要	16
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 特任講師(常勤) 伊藤 謙)	19
3. サイエンスカフェ	27
・ 2020年度 (サイエンスカフェ@待兼山 No.157 ~ 161)	29
4. 大阪大学美術部 夏部展2020 「変わりゆく街、変わらない街」	31
5. 豊中市立小中学生 理科展 発表会・表彰式	33
6. 教員活動報告	35
館 長 永田 靖	36
特任助教(常勤) 高浦佳代子	39
【研究・教育部】	
・ 資料基礎研究系 准教授 辻野 博文	41
・ 資料先端研究系 教授 上田 貴洋	45
准教授 豊田 二郎	48
准教授 宮久保圭祐	49
・ 資料情報研究系 教授 橋爪 節也	50
助 教 横田 洋	56
【資料部】 特任講師(常勤) 伊藤 謙	57
7. 資料	59
・ 2020年度の主な活動一覧	60
・ 入館者数集計結果一覧	61
・ 団体見学一覧	62
・ 関連記事一覧	63
・ 寄贈図書一覧	64
・ 館内配置図	68



# 1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館 第 14 回特別展

## なんやこりゃ EXPO'70

—大阪万博の記憶とアート



## 概 要

大阪大学総合学術博物館 第 14 回特別展「なんやこりゃ EXPO'70 - 大阪万博の記憶とアート」を 2020 年 6 月 22 日（月）から 8 月 1 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

1970 年に大阪千里丘陵で開催された日本万国博覧会は、多くの、とりわけ大阪の人々に強い印象を残し、また開催に伴う開発が地域に与えた影響も大きかった。若い世代のアーティストがアイデアを競い、世界的な文化イベントも連日開催されるなど文化史の観点からみても大きなインパクトを残した万博を、開催から半世紀を経てアート史と地域史の観点から改めて問い直し、万博を直接知らない世代にもその記憶を共有できる展覧会とした。

本展覧会期間中の来場者は、1,064 名であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 第 14 回特別展

テーマ：「なんやこりゃ EXPO'70 - 大阪万博の記憶とアート」

期 間：2020 年 6 月 22 日（月）～ 2020 年 8 月 1 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

共 催：豊中市市民ホール指定管理者

協 力：北大阪ミュージアム・ネットワーク、京都市立芸術大学、  
公益財団法人阪急文化財団、吹田市立博物館、大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：1,064 人

#### ●トークとミニコンサート

7 月 25 日（土）

会 場：豊中市立文化芸術センター多目的室

来場者数：28 名

#### 【プログラム】

第一部 「北大阪と日本万国博覧会」

『私と万国博 思いを語ろう』（大阪大学総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐）

第二部 「ウクレレミニコンサート」

（アーティスト：伊達 伸明、ギタリスト：大西洋二郎・西永 愛）

大阪大学総合学術博物館 第14回特別展  
北大阪のミュージアムで万博を考える

# なんやこりや EXPO'70

## 大阪万博の 記憶とアート



大阪の街角も飾ったせい館のロビー人形

日曜休日休館、ただし5/3(日祝)は開館

大阪大学総合学術博物館  
待兼山修学館

10時30分～17時00分

2020年4月24日 金  
←  
2020年7月18日 土

入館  
無料



前田藤四郎「カステラ包装紙(EXPO'70)」

万博五十年  
下天の内を  
比ぶれば  
あつと  
いう間の  
半世紀



「日本万国博覧会関連グッズ」



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20  
Tel:06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

- 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分
  - 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分
- ※公共交通機関をご利用ください。

主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市  
共催：豊中市市民ホール指定管理者  
協力：北大阪ミュージアム・ネットワーク、  
京都市立芸術大学、公益財団法人阪急文化財団、吹田市立博物館、大阪大学 21 世紀懐徳堂

1970年に大阪・千里丘陵で開催された日本万国博覧会は、アジア初かつ日本で最初の国際博覧会（一般博、現・登録博）であり、戦後復興をとおした日本を海外に発信する文化史上の一大イベントでした。

万博開催から50年目の記念の年である今年、「70年万博とはなんだったのか」を問い直すことは、この半世紀の大阪のみならず日本の発展と文化を振り返る意味でも重要です。

万国博は産業博として誕生しましたが、70年万博のテーマ「人類の進歩と調和」が示すように、時代を経るにつれて人類共通の問題解決を意識したテーマ性が重要視され、グローバルな規模で多様な文化が融合する実験の場、平和な世界を目指す巨大な祭典となりました。1964年の東京オリンピックに続く大規模な国際イベントとして、地域インフラの整備や人々の意識に大きなインパクトを残したことも見逃せません。

大阪大学では、2010年に「大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム 街育て Vol.3 大阪万博40周年の検証 人類は進歩したのか調和したのか」を、2013年には大阪大学総合学術博物館「大阪がとんがっていた時代－戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで－」を開催しましたが、今回の展覧会では、大阪の地域性も踏まえたアート史の視点を中心に70年大阪万博を振り返りながら、この巨大イベントに、地域や大学はどのように関わったのかも検証します。

## 展 示 概 要

### 1 万博とは何だろうか？

国際博覧会の歴史／大阪と博覧会  
日本万国博覧会開催へのみちのり

### 2 EXPO'70とアート(I)パビリオン関連

せんい館／鉄鋼館と音響彫刻  
インドネシア館／生活産業館

### 3 EXPO'70とアート(II)1970年前後のアートシーンと大阪万博

具体美術協会と大阪万博

### 4 北大阪、そして大阪大学とEXPO'70

万博とイベント／70年前後の平和運動とハンパク  
地域と万博、豊中市、大阪大学



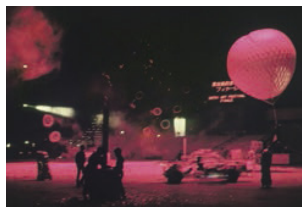
せんい館パンフレット



〈ガーデン・オン・ガーデン〉を制作する具体美術協会会員たち  
映画「日本：新しい美術」(1970年、監督：マイケル・ブラックウッド、クリスチャン・ブラックウッド、製作：マイケル・ブラックウッド・プロダクションズ)より



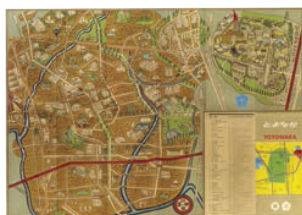
1970年の豊中市広報誌  
表紙デザイン：田中健三事務所



「具体美術まつり」フィナーレ(1970年)写真提供：公益財団法人阪急文化財団池田文庫



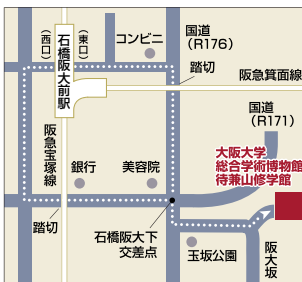
1937年のパリ万博を特集した当時の雑誌



万博当時の豊中市街イラスト  
デザイン：田中健三事務所



日本万国博覧会公式記録  
別冊資料集



- 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分
  - 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分
- ※公共交通機関をご利用ください。

## 【関連イベント】

### ミュージアムレクチャー

5/16(土)

「EXPO'70とパシェの音響彫刻」

岡田加津子(京都市立芸術大学)

5/30(土)

「再生!お祭り広場 —大阪万博とパフォーマンス—」

正木喜勝(阪急文化財団)

6/6(土)

「現代万博のテーマの変遷」

五月女賢司(吹田市立博物館)

7/4(土)

「大阪万博資料にみる3つの悲しみのパビリオン—チェコスロバキア館、カンボジア館、ガス・パビリオン」

岡上敏彦(万国博記念機構元職員)

会場：大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3Fセミナー室

定員：各30名(先着順・申し込み不要、参加費無料)

いずれも 14:00 ~ 15:30(入場受付は30分前から開始)

### トークとミニコンサート

6/20(土)14:00~16:30

豊中市文化芸術センター 多目的室  
阪急宝塚線・曾根駅より徒歩約5分(公共交通機関でご来場ください)

● 第一部

「EXPO'70@toyonaka.osaka.jp 万国博は地域を変えたのか?」

● 第二部

「私と万国博 思いを語ろう」

ミニコンサートでは、

豊中市在住のアーティスト

伊達伸明氏の作品

「豊中市市民会館

ウクレレ」を演奏します。

定員：150名

参加費無料・要申込

申し込み方法など詳細は大阪大学総合学術博物館ホームページをご覧ください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



豊中市文化芸術センターに常設展示

### シンポジウム

7/11(土)13:30~16:00

「大阪万博の時代：アートの視点で(仮題)」

乾健一(茨城県近代美術館)、加藤瑞穂(大阪大学)、ディクディク・サヤディクムラッ

(Dikdik Sayahdikumullah, バンドン工科大学・インドネシア)、橋爪節也(大阪大学)

会場：大阪大学豊中キャンパス

大阪大学会館アセンブリー・ホール

定員：100名(先着順・申し込み不要、参加費無料)



問い合わせ先

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel:06-6850-6284 Fax:06-6850-6049

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

## 報 告

### 大阪大学総合学術博物館 第14回特別展

#### 「なんやこりゃ EXPO'70 - 大阪万博の記憶とアート」

大阪大学総合学術博物館  
准教授 宮久保 圭祐

2020（令和2）年は1970（昭和45）年に大阪、千里丘陵において開催された日本万国博覧会（以後、大阪万博と表記）から50周年の記念の年にあたる。大阪大学総合学術博物館では第14回特別展として地域に根差したアート史の観点から大阪万博をふりかえる「なんやこりゃ EXPO'70 - 大阪万博の記憶とアート」を開催した。

一方、2020年は、前年の終わりからその兆候が見え始めたコロナウイルスの世界的なパンデミックにより記憶に残る一年となり、本展覧会もその影響を大きく受けた。当初は、4月24日（金）から7月18日（土）までの会期を予定していたが、準備中の3月3日（火）からコロナウイルスの感染拡大防止のため博物館は休館、一般公開を中止することとなった。先が見通せない中でも、状況が良くなれば予定の会期に開催できるように展覧会準備を進めることとなった。しかしながら、それから約一月後の4月7日には大阪にも緊急事態宣言が発出され、さらに14日には休業要請を受けて博物館内での展示作業も最終段階直前で中断となった。この時点では開催の目処もたたない状態だったが、その後、感染拡大の波が一旦は収まり、5月21日には緊急事態宣言も解除されたため、館全体として感染拡大防止対策を取りながらの開館を決定し、展覧会の展示作業を進めて、6月22日（月）より開催が始まった。会期が短くなったのを補うため、終了を8月1日（土）まで延長し、そのための資料の借用期間の変更交渉などを行った。ただし、豊中キャンパス内で予定していたミュージアムレクチャー<sup>1</sup>やシンポジウム<sup>2</sup>は全て中止として、豊中市と共催で開催を予定していたイベントは日時を変更して実施することとなった。また感染拡大防止対策のために、館全体として同時入場数の制限を行い、開館時間も閉館時間も短縮するなどの他、なにより外出

---

<sup>1</sup> 5月16日「EXPO'70とバシエの音響彫刻」岡田加津子（京都市立芸術大学）、5月30日「再生！お祭り広場—大阪万博とパフォーマンス—」正木喜勝（阪急文化財団）、6月6日「現代万博のテーマの変遷」五月女賢司（吹田市立博物館）、7/4（土）「大阪万博資料にみる3つの悲しみのパピリオン—チェコスロバキア館、カンボジア館、ガス・パピリオン」岡上敏彦（万国博記念機構元職員）の開催を予定していた。

<sup>2</sup> アート史に関連する展示を監修した、乾健一（茨城県近代美術館）、加藤瑞穂（大阪大学）、ディクディク・サヤディクムラツ（Dikdik Sayahdikumullah, バンドン工科大学・インドネシア）、橋爪節也（大阪大学）による国際シンポジウムの開催を7月11日に予定していた。

や博物館に行くことそのものを自粛するような社会全体の雰囲気の影響を受けて、会期中の入館者は1064名に留まった。

大阪万博は、我が国はもとより、西欧・北米地域以外で初めて開催された国際博覧会である。東京オリンピックと共に戦後復興を遂げた日本の国際アピールのための一大イベントであった。その後の日本、とりわけ大阪に大きな影響を与えたと考えられているが、開催から半世紀を経た今日、大阪万博を直接知らない世代の方が社会の大半を占めるようになってきている。そのため今日の視点で改めて大阪万博を見直すことは非常に有意義であると考えられる。本展覧会の主担当教員である橋爪節也教授が呼びかけて、文学研究科内に学生を中心とした研究会を立ち上げ、大阪万博とその時代の調査を進めてきた。その成果の一部は、インドネシア館のパネル展示や、ハンパクに関する展示として本展覧会でも活用された。

展覧会につながるもう一つの準備として、当館を含めた北摂地域のさまざまな博物館が加盟する北大阪ミュージアム・ネットワークにおいて、北摂地域での画期的な一大事であった大阪万博について、連携して展覧会やイベントなどの企画を進めることを2017年に提案した<sup>3</sup>。賛同いただいた加盟館と

共同で連携企画準備会を立ち上げて、2018, 2019年度に続けて、ネットワークの共同イベントである北大阪ミュージアムメッセ（国立民族学博物館で開催）において万博に関する連携展示を実施した。さらに、シンポジウム<sup>4</sup>も2年度続けて開催した（会場は関西大学梅田キャンパス KANDAI MeRISE ホール）。50周年である2020年には、「北大阪のミュージアムで万

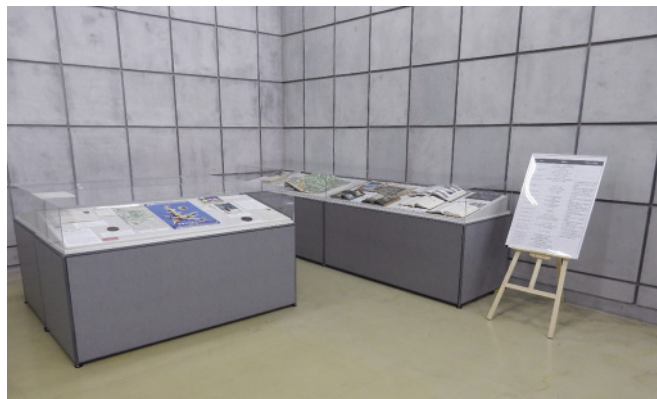


図1 北大阪ミュージアムメッセでの連携展示

博を考える」という共通タイトルの下で、当館を含めて複数の館が展覧会を行った。さらにコロナウィルスの感染拡大で開催が危ぶまれた3回目のシンポジウム「大阪でEXPOを考えるⅢ—大阪万博50年—」を9月13日に、国立民族学博物館を主会場に、オンライン講演を交えて開催し、事前申込者への同時配信を行った。一連のイベントを通じて、大阪万博に関する様々な情報を交換することができた。

以上のような準備を進めながら、展覧会内容を検討した。基本的なテーマは研究会で進

<sup>3</sup> 本報告の筆者は北大阪ミュージアム・ネットワークの担当者としての関連もあり、展覧会の副担当となった。

<sup>4</sup> 「大阪でEXPOを考えるⅠ 博覧会の歩み—'70万博への道—」を2019年1月12日、「大阪でEXPOを考えるⅡ 博覧会の歩み—'70万博への道—」を12月22日に開催した（会場はともに関西大学梅田キャンパス KANDAI MeRISE ホール）

められてきた、アート史の観点からの大阪万博の総括であり、また地元、北摂の大学博物館で開催する意義として、地域や大阪大学とのかかわり、さらには地域に住む人々の万博に関する記憶を呼び起こすことを考えて展覧会を構成した。

展示は四章構成として、それぞれに多目的室の一区画を使用した。導入部にあたる第一章では「万博とは何だろうか?」として、大阪万博に至るまでの、日本、そして大阪の博覧会とのかかわりや、大阪万博の準備段階などに着目して展示を構成した。まず展覧会の歴史としては、大阪万博以前に開催された博覧会の例として、大阪市も展示に参加した1910年の日英博覧会や、ナチスドイツが台頭



図2 第一章の展示風景

してきた時期として知られる1937年のパリ万博、大阪万博の前に開催された1967年のモントリオール万博などの当時の資料を紹介した。続いて大阪と博覧会のかかわりとして、1903(明治36)年に大阪で開催された初めての本格的な博覧会であり、国際博でもあった、第五回国内勧業博覧会について、当時の地図や図面、あるいは美術展示目録や、同時に大阪で開催された催しものの紹介などの展示を行った。さらにその会場跡地に開発された新世界や、その後大阪で開催された大正記念博覧会(1925(大正14)年)や電気博覧会(1926(大正15)年)なども紹介した。次に大阪万博の準備段階を振り返る資料として、日本万国博覧会協会が作成していた内部資料や広報冊子を展示した。これには事前の研究段階



図3 日本万国博覧会公式記録

で取得していた、日本万国博覧会協会の初代事務総長である新井真一氏の旧蔵資料を活用した。また、新井氏は旧制大阪高校出身で当館に個人出版した画集が保管されていたのでそれも合わせて展示した。つづいて展覧会終了後に作成された膨大な公式記録をまとめて展示した。万博の準備段階で積み重ねられた膨大な議論や、詳細なデータが記録されていて、後世に役立つようになっていく貴重な

ものである。さらに吹田市立博物館から万博会場の模型を出品してもらい、当時のガイド

マップと合わせて会場の雰囲気を想像してもらえようようにした。

第二章は万博の顔ともいえるパビリオンについて「映像と音響のパビリオン」として、興味深いパビリオンに絞って紹介した。展示の中心は横尾忠則がプロデュースした「せんい館」で、ロビー人形を展示の中心に据えた。この人形は四谷シモンがデザインしたもので、全体が赤く染まったロビー内でレーザー光であやとりをしていた15体の人形の一つで、万博終了後に個人の所有となり大阪市平



図4 第二章の展示風景

野区で街角を飾っていた、地域に残る万博の記憶である<sup>5</sup>。併せて会場音声を再生して当時の雰囲気の再現を試みた。横尾がデザインしたポスターも展示し、せんい館について語った言葉を解説パネルにまとめた。その他、鮮烈な映像と音響が来館者に大きな印象を与えた「三菱未来館」や、スペースシアターで前衛音楽が演奏された「鉄鋼館」を当時のパンフレット



図5 第二章の展示風景（別角度から）

などで紹介した。これに関連して京都市立芸術大学の岡田加津子教授から、鉄鋼館で演奏に使われた音響彫刻を再現し演奏した映像を提供していただき、セミナー室でリピート再生した。前述の文学研究科の研究会に参加していた、インドネシア、バンドン工科大学のディクディク・サヤディクムラツ氏が、インドネシア館について参加国の視点からまとめた研究をパネルにして展示した。その他に

共催の豊中市からの示唆と仲介を受けて、地元の豊中市で活躍していた田中健三氏の旧蔵資料を展示した。展示デザインにかかわった「生活産業館」や、当時出入りしていた建設中の万博会場の写真、自身が率いていた「創作の室」が万博のレクリエーションゾーンの構想に提言していた資料などである。締めくくりとして当時パビリオンで配布されていた様々なパンフレットを並べた。

<sup>5</sup> この資料は展覧会終了後に、所有者のご厚意により当館で購入させていただいた。

第三章は「具体美術協会と大阪万博」として、大阪を拠点に活動し世界的な評価を受けるようになった、「具体美術協会」と大阪万博のかかわりについて、研究を進めてきた招へい准教授の加藤瑞穂が展示を構成した。お祭り広場で開催された「具体美術まつり」と「夜のイベント」、万国博美術館に野外展示された「ガーデン・オン・ガーデン」、みどり館エントランスホール展示が紹介された。展示には大阪府（日本万国博覧会記念協会の資料を継承）、国立国際美術館、阪急文化財団、ガーデン・オン・ガーデンに実際にかかわった今井祝雄氏からご協力をいただいた。「夜のイベント」について、国立国際美術館と阪急文化財団が独自に所蔵してきた動画を同時に展示するなど、これまでにない展示をすることができた。また、マイケル・ブラックウッドとクリスチャン・ブラックウッドの兄弟が1970年に前衛美術作家取材した記録映像「日本：新しい美術」にはガーデン・オン・ガーデンに関する記録が含まれていて、セミナー室でリピート再生した。

第四章は「EXPO'70の記憶」として、その当時の北大阪、大阪大学、あるいは当時に万博に感化を受けた世代の記憶を呼び起こす展示を目指した。その一つは、万国博の前年に大阪城公園で開催された「反戦のための万国博」（ハンパク）に関するもので、かつて研究会に所属していた茨城県現代美術館の乾健一氏の研究と所蔵資料を活用したものである。大阪大学は万博



図6、7 第三章の展示風景



図8 第四章の展示風景



と前後して吹田キャンパスを万博会場の北側に建設し、万博終了後には駐車場を校地として取得した。万博前後の千里丘陵の開発の様子がわかる資料を展示しその関係を示した。また万博会場に隣接する豊中市では、万博の開発に合わせて伊丹の大阪国際空港の整備や、市域を取り囲むように道路が整備され、万博会場へのメインアクセスとなる御堂筋線の延長や北大阪急行線の整備が行われた。当時の豊中市の広報誌や、イラストマップは前述の田中健三氏の事務所でデザインされたもので、急速に人口が拡大していく豊中の様子を伝えている。また豊中市も万博の影響を



図9 第四章の展示風景（別角度から）

評価する冊子を作製していた。また万博ではパビリオンについて語られることが多いが、万博の主催により世界中の一流オーケストラによるクラシックコンサートが大阪市内のフェスティバルホールで連日行われていた。万博会場内でも万博ホールでポピュラーミュージックのコンサートやお祭り広場を使用したイベントなど、世界中の音楽を体験することができる機会となっていたことや、万博共催で様々なイベントが大阪で開催されていたことを、当時のパンフレットなどを使って示した。また当時様々な万博グッズが作成され、万博を取り扱った様々な出版物が発行された。本展覧会のチラシのメインイメージも、版画家の前田藤四郎によりデザインされたカステラの包装紙である。また万博は人々の想像力をさまざまに刺激し、終了後も多くの創作作品が派生的に誕生したので、その例を展示した。

展覧会関連のイベントとしては、共催の豊中市を中心に計画した「トークとミニコンサート」を、開催日程を当初の6月20日（土）から7月25日（土）に遅らせることにより、感染拡大防止対策を取りながら開催することができた。総合学術博物館の宮久保が展覧会と万博前後の豊中を振り返り、豊中市在住の伊達伸明氏が会場となった豊中市文化芸術センターの前身、豊中市立市民会館の資材を活用したウクレレに関してトークを行い、会場に来ていた参加者から万博当時の思い出を語っていただいた。締めくくりには、豊中市にある大阪音楽大学出身のアーティスト大西洋二郎さんによる、豊中市立市民会館ウクレレを使ったミニコンサートが開催され大いに盛り上がった。また豊中市による後日の動画配信も行われた。

また、会期が短くなったことを補う試みとして、展覧会の動画による紹介をすることとなり、with コロナ時代のデジタル博物館のコンテンツとして公開に至っている。また、展覧会や北大阪ミュージアムネットワークのシンポジウムの講演などをまとめた博物館叢書は、編集が遅れていたが2021年秋に出版された。

## 2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 第23回企画展

# CHINA GRAPHY

日本のまなざしに映った中国

## 概 要

大阪大学総合学術博物館 第23回企画展「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」を2020年10月31日(土)から1月30日(土)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。この展覧会では、近代以降の日本人旅行者や研究者による中国各地の記録と表象(絵葉書・写真等)を主たるテーマとした。国際日本文化研究センター所蔵資料および本学言語文化研究科と総合学術博物館教員の撮影した資料を活用し、戦前・戦後における中国各地の社会的変化、日本人の中国認識の変容、とりわけその間の両者の連続と断絶を検証し、戦前から現在へと至る記録・表象の変遷をたどった。本展覧会は、国際日本文化研究センターおよび本学言語文化研究科と総合学術博物館が初めて共同で実施した展覧会となった。本展覧会期間中の来場者は、1,225名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 第23回企画展

テーマ：「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」

期 間：2020年10月31日(土)～2021年1月30日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、国際日本文化研究センター

共 催：大阪大学大学院言語文化研究科

入館者数：1,225人

〈シンポジウム〉『日本のまなざしに映った中国』を語る」

11月29日(土) オンライン開催

講 師：伊藤 謙(大阪大学総合学術博物館 特任講師(常勤))

劉 建輝(国際日本文化研究センター 教授)

深尾 葉子(大阪大学大学院言語文化研究科 教授)

参加者数：62名



日本のまなざしに映った中国  
 CHINA: THROUGH JAPAN'S EYES  
 日本視線中的中国

大阪大学総合学術博物館 第23回企画展

日本のまなざしに映った中国  
 CHINA  
 GRAPHY

日時：2020年10月31日[土] ▶ 2021年1月30日[土]

11:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日:日曜日・祝日・年末年始12月28日(月)～1月4日(月)

ただし11月22日(日)は特別開館

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

入場料：無料

主催：大阪大学総合学術博物館 / 国際日本文化研究センター

共催：大阪大学大学院 言語文化研究科



博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

本展覧会には、

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)26283008:研究代表者 深尾葉子、  
 挑戦的研究(萌芽)17K18512:研究代表者 伊藤謙)による研究成果の一部が含まれる。

# 日本視線中的中国

## 日本のまなざしに映った中国

近代以降の日本人旅行者や研究者による中国各地の記録と表象(絵葉書・写真等)をテーマにした展覧会を開催します。国際日本文化研究センター所蔵資料および、本学言語文化研究科と総合学術博物館教員の撮影した資料を活用し、戦前・戦後における中国各地の社会的変化、日本人の中国認識の変容、とりわけその間の両者の連続と断絶を検証し、戦前から現在へと至る記録・表象の変遷をたどります。

This exhibition showcases the written archives and visual records (such as postcards and photographs) concerning social changes all over China, as well as the reception of Japanese about China. The exhibition explores the continuities, disparities and transformations between the fact and the reception, from pre-war period until recent. Featuring objects were selected from the collections from International Research Center for Japanese Studies, Graduate School of Language and Culture, Osaka University, as well as Museum of Osaka University.

本次展览会以“日本视线中的中国”为主题，将展出自近代以来的日本人旅行者及研究者所留下的关于中国各地的记录及图像(明信片、照片等)。

本次展览将使用国际日本文化研究中心及大阪大学语言文化研究科、综合学术博物馆教员们所提供的影像资料，来展现从战前至战后中国各地的社会变化，以及日本人的中国认识的变迁，并以此为出发点，来探索中日两国之间的接续与断裂。



吉田 初三郎[滿蒙の交通産業案内] 1932(昭和7)年

### 《展示構成》

#### 1) 大陸へのまなざし-拡大する帝国とその表象-

地図・鳥瞰図・パンフレットにみる中国の空間表象  
明治・大正期の日本人が記録した中国

#### 2) 戦前中国へのまなざし-絵葉書が伝えた風俗と戦場-

昭和前期の渡航者のまなざし(実像と虚像の交錯)  
従軍画家の描いた日中戦争(顕現と隠蔽の戦場)

#### 3) 現代中国へのまなざし-内と外からみる風景-

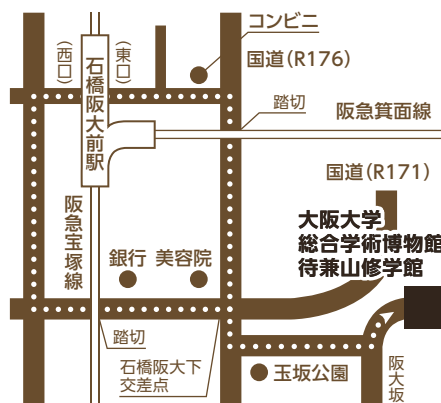
革命後の新中国(贖罪と憧憬の旅) / 改革開放後の変貌(郷愁と脅威の喧伝)  
中国が見せたかった中国 / 大阪外国語大学卒業生が撮る中国  
中国の内部へ / 演劇資料

#### 4) 阪大からのまなざし

-深尾研究室による黄土高原フィールドワークと中国語研究室が受け継いできたもの-  
天と人(冠婚葬祭など) / 地と人(高原地帯に暮らす人と自然)  
人と人(ヤオトン、食事などの生活)

関連書籍の販売及び  
展示のオンライン配信を  
予定しています。  
詳細は、大阪大学総合  
学術博物館HPで  
後日、ご案内いたします。

### Access《アクセスマップ》



阪急宝塚線「石橋阪大前駅」下車、徒歩10分  
※公共の交通機関をご利用ください。

### 《展覧会関連イベント》

シンポジウム

#### 『日本のまなざしに映った中国』を語る

開催日時：2020年11月29日[日] 14:00~16:00(予定)

講師：伊藤 謙(大阪大学総合学術博物館 特任講師(常勤))

劉 建輝(国際日本文化研究センター 教授)

深尾葉子(大阪大学大学院 言語文化研究科 教授)

シンポジウム内容

展覧会を担当した研究者たちが『日本のまなざしに映った中国』について、講演と座談会形式を交えて語りあいます。各担当者による本展覧会の解説も実施します。

※オンライン開催予定、使用言語は日本語です。

詳細は、大阪大学総合学術博物館HPで後日、ご案内いたします。

### Symposium

大阪大学総合学術博物館  
MOU 待兼山修学館  
Museum of Osaka University

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel : 06-6850-6284

https://www.museum.osaka-u.ac.jp/

フェスタ  
国立大学2020

#### ●ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。また、現在当館では入場人数の制限や開館時間の短縮、来館者の皆様へのマスクの着用や健康チェックシートのご記入等をお願いしております。来館やイベント申込にあたっては、事前にホームページでご確認ください。

## 報 告

大阪大学総合学術博物館 第23回企画展

「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」

大阪大学総合学術博物館 資料部

特任講師（常勤） 伊藤 謙

大阪大学総合学術博物館 第23回企画展

テーマ：「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」

期 間：2020年10月31日（土）～2021年1月30日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、国際日本文化研究センター

共 催：大阪大学大学院言語文化研究科

入館者数：1,225人

### 【開催趣旨】

近代以降の日本人旅行者や研究者による中国各地の記録と表象（絵葉書・写真等）をテーマにした展覧会を開催しました。国際日本文化研究センター所蔵資料および本学言語文化研究科と総合学術博物館教員の撮影した資料を活用し、戦前・戦後における中国各地の社会的変化、日本人の中国認識の変容、とりわけその間の両者の連続と断絶を検証し、戦前から現在へと至る記録・表象の変遷をたどることを意図しました。

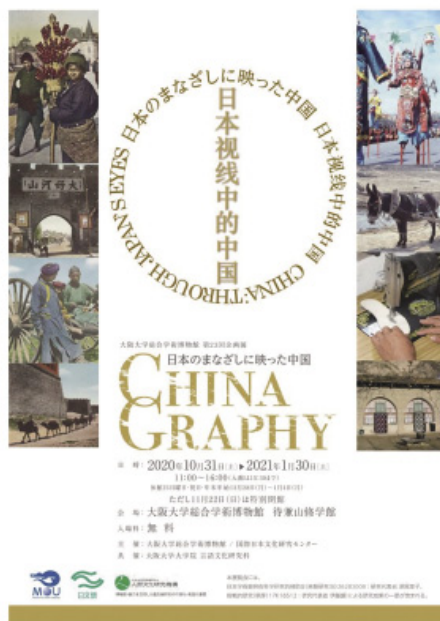


図1 本展のポスター “眼差し” をイメージしたデザインとした

### 【メインの展示と詳細】

会場を4つの展示ゾーンに分け、「大陸へのまなざし－拡大する帝国とその表象－」、「戦前中国へのまなざし－絵葉書が伝えた風俗と戦場－」、「現代中国へのまなざし－内と外からみる風景－」、「阪大からのまなざし－深尾研究室による黄土高原フィールドワークと中国語研究室が受け継いできたもの－」として、歴史的な流れの順番に展示を配置、分野別に理解が進むよう展示を工夫した。特にタイトルにもある、「日本のまなざし」を各展示に意識した展覧会を企画した。

ゾーン分けは、大きく2つで実施した。第1室・2室が国際日本文化研究センターの資料を中心とした展示で構成し、戦前の資料を紹介した。第3室・4室が大阪大学言語文化研究科と総合学術博物館の資料や研究紹介を中心とした展示で構成し、戦後の資料を紹介した。

**第1室「大陸へのまなざし－拡大する帝国とその表象－」**は、地図・鳥瞰図・パンフレットにみる中国の空間表象、明治・大正期の日本人が記録した中国、を中心に展示を行った。ここで中心となった展示品は、吉田初三郎（よしだ はつさぶろう、1884-1955）の鳥瞰図である。吉田は、大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師であり、生涯に3000点以上の鳥瞰図を作成し、「大正広重」と呼ばれた存在である。この背景にあるのが、大正から昭和初期に起こった大観光ブームである。そのブームの中、日本内外の旅行パンフレットに鳥瞰図が取り入れられたが、その代表的な存在が吉田である。その様式は、「吉田初三郎式」として人気を集め、極端なデフォルメ・大胆な構図・鮮やかな配色による豊かな表現に彩られており、詳細な情報が盛り込まれた旅行案内が多数出版された。『京阪電車御案内』（大正2年）を見た皇太子時代の昭和天皇から、「これは奇麗で解り易い」と賞賛を受けたとされている。国際日本文化研究センターでは、吉田初三郎、および彼の影響のもと同時代の絵師が描いた鳥瞰図の網羅的な収集を行ってきた。その画像は、現在、同センターのホームページ上のデータベースにて自由に見ることができる。本展示では、中国を描いた作品を中心に展示を実施した。それと併せて、戦前の中国大陸への日本からの観光パンフレットや地図などの貴重な資料を陳列した。これらの資料は、国際日本文化研究センターの劉建輝教授が長年にわたり個人的に収集してきたものであり、初めて公開される資料も多く含まれていた。

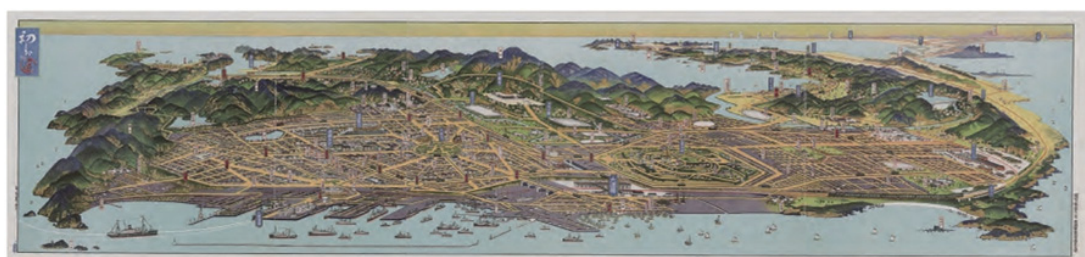


図2 大連、吉田初三郎作、1929年、国際日本文化研究センター所蔵



図3 戦前の大陸の観光案内、1930年代、劉建輝氏所蔵

**第2室「戦前中国へのまなざし－絵葉書が伝えた風俗と戦場－」**は、昭和戦前期（1926～1945）における、日本の戦場画家の描いた絵葉書によって描かれた大陸の情景を紹介した。昭和戦前期は日中両国にとってどちらも実に波瀾万丈の時代だったといえる。すなわち、1928年に済南事件、1931年に満洲事変、1933年に熱河作戦、1937年に日中全面開戦など軍事衝突が相次ぎ、正常な隣国関係を構築することができていなかった。しかし、一方、これらの戦乱にもかかわらず、いわゆる大陸への渡航者は毎年増え続け、終戦時の1945年には200万人以上にも達しており、当時の約7,000万の全国民中、20人に1人が中国渡航体験者ということになる。そして、これらの渡航者は、さまざまな立場と角度から戦乱期の中国を観察し、膨大な数の文字や画像、映像の記録を残した。そこには日本による現地の植民地的経営の成果も数多く含まれているが、着目すべきは、中国各地・各民族の多種多様な風景や風俗に関する記録である。これらの情景は、現地の人間による記録がほとんどなされなかったこともあり、当時の状況を知る非常に貴重な資料となっている。その中でも、戦場において、記録を行う従軍画家の作品について、本展覧会では紹介した。当時を代表する作家たちが描いていたにも関わらず、現在至るまで積極的な研究が為されてこなかったが、本展示を企画した劉建輝教授（国際日本文化研究センター）によって、現在精力的に研究が進められている。





図4 戦場画家による絵葉書、川端龍子（1885～1966）作、1926～45（詳細な制作年不詳）、劉建輝氏所蔵

第3室「現代中国へのまなざし－内と外からみる風景－」は、戦後から文化大革命期そして解放の時期に焦点あてて展示を実施した。そして、その中での大阪大学外国語学部（旧大阪外国語大学）の卒業生や学生が行ってきた活動についても紹介した。

文化大革命期の中国は外国人の訪問も著しく制限されていた。日本から訪問することができるのは「友好商社」や「代表団」などあらかじめ許可された人々に限られていた。また現地で参観が許されるのも、中国側が指定した場所と交流相手であった。しかし、文化大革命の後期には徐々に海外からの中国訪問者や観光客に門戸が開かれ始めた。当時中国が内外に知らせていた姿は、社会主義リアリズムによるロマン化されたものである。1950年代に創り上げられた社会主義イメージにより、政治的なシンボルである北京天安門や各地の名所旧跡が描かれている。それ以降、1980年代初頭は中国が激変する時代への過渡期ともいえる時期であった。人民公社が各地で解体され、個人経営者が各地で林立し始める。大阪外国語大学（現在の大阪大学外国語学部）卒業生には、貿易商社や新聞記者として中国を訪問、駐在していた人が少なくない。激動の火ぶたが切って落とされるこの時期は大きなエネルギーの渦巻く時代であった。

3室において重要となった展示品は、深尾葉子（大阪大学大学院言語文化研究科教授）が長年にわたり収集してきた戦後の中国関連資料および旧大阪外国語大学の卒業生が中国において撮影・収集してきた資料である。深尾の中国研究の原点ともなった中国革命演劇の日本語カレンダーなどは残存の少ない当時の日中交流を示す貴重な資料である。さらに、旧大阪外国語大学の卒業生のご協力により、当時の中国で収集された資料や写真を展示することができた。



図5 中国革命演劇の日本のカレンダー、1971年および1967年、人民中国雑誌社刊行、深尾葉子研究室所蔵



図6 左から、「デモ行進に狩り出された日本人と中国人学生、1966年、三次召尚氏（大阪外国語大学中国語学科卒業生）撮影」、「当時の外国人記者証・笠井孝之氏（大阪外国語大学中国語学科卒業生）」、「読者訪中団の歓迎の演目」、全て深尾葉子研究室所蔵

大阪外国語大学には中国語専攻学生による中国語劇の伝統があり、それは現在、大阪大学中国語専攻にも受け継がれている。中国との直接交流の難しかった1970年代や80年代は、語劇を通じて中国社会を理解し、中国語を習得した。その後、中国などでも公演を行うようになり、現在も卒業生と現役生を結び、中国語専攻のある関西の大学間の交流をとりもつ重要な活動となっている。展覧会では、歴代の中国語劇のパムフレットと台本、写真などとともに、外大中国語教育で用いられてきた教科書と過去の卒業論文を展示した。



図7 大阪外国語大学中国語専攻学生による中国語劇の台本、全て深尾葉子研究室所蔵

**第4室「阪大からのまなざし－深尾研究室による黄土高原フィールドワークと中国語研究室が受け継いできたもの－」**は、大阪大学大学院言語文化研究科・深尾葉子研究室が、分野横断的に実施してきた黄土高原のフィールドワーク研究を紹介した。

深尾は、1980年代に列車の窓から農村の風景を目の当たりにし、中国の村で住み込み調査を行いたいという希望を抱き、1980年代を通して終生の調査地を探し、1990年に黄土高原の村にたどり着いた。その結果、中国の陝西省にある楊家溝という村に出会い、その年から2020年までほぼ毎年の変化を観察した。

その中で、社会生態学的なフィールドワーク研究だけでなく、様々な分野での共同研究が育まれてきた。すなわち、砂漠緑化作物の産業利用という観点から、大阪大学大学院工学研究科宇山浩研究室との共同研究、大阪大学 Hitz(バイオ) 協働研究所中澤慶久研究室との共同研究、大阪大学大学院理学研究科大岡浩造准教授との地表面緑化促進に有益な光合成細菌であるシアノバクテリア（藍藻）に関する共同研究、さらに現地の化石・鉱物、石薬、文化的歴史的遺産の利用に関する大阪大学総合学術博物館の伊藤謙らとの学内の多分野にわたる共同研究へと発展した。その中で、これまでも多数の留学生を派遣してきた陝西省榆林学院、黄土高原出身で砂漠緑化作物であるスナモモ（長柄扁桃）の産業利用の多年の研究で知られる中国西北大学の申燁華教授との共同研究も進み、宇山教授が西北大学の博士指導教授となり、西北大学・大阪大学間の複数の部局間協定も取り結ぶこととなった。それらのフィールドワーク研究の軌跡を示す写真や資料を本室では展示した。



図8 深尾がフィールドワーク研究の拠点としている陝西省の伝統的洞穴式住宅“窑洞（ヤオトン）”の四季、2004年、深尾葉子氏撮影

### 【エピローグ】

本展覧会では、国際日本文化研究センターおよび本学言語文化研究科との初めての連携により実施した本館初の試みとなり、上記の項目で構成される2者の研究成果・資料を紹介することで展示は展開した。

本館側の担当となった伊藤は、エピローグにおいて、自らの歴史研究の成果を紹介することで締めくくった。「近代日本のフィールドワーク－関西発の大陸へのまなざし」、すなわち1900年代初頭の“関西”から世界に広い“まなざし”を向ける、フィールドワーク研究が発信されていたことである。

その代表例が、浄土真宗本願寺派第22代法主・大谷光瑞（おおたにこうずい、1876-1948）が自ら組織し、自分自身もフィールドワークに参加したことで知られる「大谷探検隊」である。20世紀初頭において、中央アジアに欧米列強が複数の学術探検隊を派遣し、フィールドワークを実施した。しかし、その多くは各国政府の派遣によるものであったが、日本での同地方への探検隊は浄土真宗本願寺派が組織したものであった。1902-1914の間に、計3回にわたって実施され、数多くの貴重な文化財や情報が日本にもたらされた。その成果は、仏教関連に留まらず、自然科学・芸術と幅広い分野においても多くの発見がなされた。現在、その評価は分かれるところであるが、アジア人、特に仏教徒自らが、“仏教東漸”のルーツを探るべく、“大陸へのまなざし”を向けたことは、大きく評価され得る部分であろう。

大谷にはじまり、関西では大陸へのまなざしを向けた日本人が複数輩出した。その中の1人が、大谷の弟子でもある、カルピスの生みの親・三島海雲（みしま かいうん、1878-1974、現・箕面市萱野にて生誕）である。1908年に内蒙古ケシクテン（現在の内モンゴル自治区）

にて、体調を崩し瀕死の状態に陥ったが、酸乳を飲み続けたところ回復を果たした経験から、乳酸菌飲料の産業化に着目した。試行錯誤の末、世界で初めての乳酸菌飲料の大量生産に成功し、1919年7月7日に『カルピス』として発売する。この商品名はサンスクリット語の仏教用語が語源であるとされる。仏教の経典・大般涅槃経（だいはつねはんぎょう、Mahāparinirvāna Sūtra）には、醍醐（だいが、sarpir-manda）や熟酥（じゅくそ、sarpis）をはじめとする乳製品「五味」の製法が述べられており、それらは万病の霊薬・至高の味とされている。この「熟酥（sarpis）」から「カルピス」の名前が創られた。経典にも記載されている発酵食品を産業化へと推し進めた三島の脳裏には、師である大谷光瑞や大谷探検隊の記憶があったことは想像に難くない。

近代日本人が抱いてきた大陸への“まなざし”はこのような形で、今も息づいているのだ。

### 【教育の場としての展覧会】

大学博物館の重要な機能の一つが『教育』である。本展覧会においても、教育の場としての活用を試みた。

第1には、学生の展覧会への積極的な関与である。本展覧会においては、企画の段階から学生に参画を促し、具体的な展示内容などについての意見交換も実施してきた。もちろん展覧会の設営などにも、これらの学生には参加してもらい、展覧会を実習の場として活用することができた。参加した学生には、学芸員を志すものも複数おり、そのような学生の実績作りとしても非常に有効であったと感じている。

第2には、展覧会とそれに関連する経験をファカルティ・ディベロプメント（Faculty Development、FD）の一環として本学博物館が実施している新任教員研修に取り入れたことである。座学と併せ、実際の展覧会を見学することで、大学博物館を活用したアウトリーチ活動実践についてのアプローチを紹介し、そのメソッドや考え方を習得することを志向した。

### 【最後に】

本展覧会では、大学博物館であることを最大限生かし、①本学の活動の紹介、②本学の研究成果の展示、③博物館以外の機関（国際日本文化研究センターおよび言語文化研究科）との密な連携、④教育の場としての大学博物館の活用、⑤外部予算（国際日本文化研究センターからの展示用費用の獲得）を活用した展示、の5点について、ある一定の成果をだすことができたと自負している。また、本展覧会はコロナ流行下であったことから、五十里翔吾氏（本学大学院基礎工学研究科）の協力の下、仮想空間上での展示も実施した。

これらの実践には、周囲の協力者の助けが不可欠であった。永田靖館長以下、館員各位に心より感謝申し上げる次第である。

なお、本稿は大阪大学総合学術博物館第23回企画展「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」の図録（国際日本文化研究センター発行）を基に執筆した。

### 3. サイエンスカフェ@待兼山

期 間：サイエンスカフェ@待兼山

2021年2月20日（土）～ 2021年3月13日（土） カフェ No.157 ～ 161

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

大阪大学で行われている最新の研究を広く社会に紹介するとともに、普段、接する機会の少ない専門家と一般の方々間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は2008年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。また、2016年度からは、豊中市立中央公民館との共催で、「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を実施してきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「サイエンスカフェ@待兼山」のみの開催となった。両講座ともに現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。

尚、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべてオンラインにて実施しており、遠隔地からの参加など参加者層に変化が見られた。

サイエンスカフェの実施状況：

2008年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施13回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施14回
2009年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施10回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9回
2010年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施10回
2011年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施15回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8回
2012年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施11回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8回
2013年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4回
2014年度	通年	カフェ No.117 ～ 126	実施10回
2015年度	通年	カフェ No.127 ～ 134	実施 8回
2016年度	通年	カフェ No.135 ～ 141	実施 7回
		カフェ No.C-1 ～ C-3	実施 3回
2017年度	通年	カフェ No.142 ～ 147	実施 6回
		カフェ No.C-4 ～ C-6	実施 3回
2018年度	通年	カフェ No.148 ～ 151	実施 6回
		カフェ No.C-7 ～ C-9	実施 3回
2019年度	通年	カフェ No.152 ～ 153	実施 2回
		カフェ No.C-10～ C-11	実施 2回
2020年度	通年	カフェ No.157 ～ 161	実施 5回

サイエンスカフェ@待兼山 (2020年：2021年2月20日～2021年3月15日 No.157～161)

No.	実施日	タイトル	要旨
		コーディネーター	
157	2/20 (土)	「音楽のまち」はどのように創られたのか	日本の「音楽のまち」といえば、どこを思い浮かべますか？実は、日本には「音楽のまち」をうたう都市がたくさんあります。日本各地の「音楽のまち」は、いつ頃から、どのようにして「音楽のまち」と名乗るようになったのか、いくつかの都市を取り上げお話しします。
		肥後 楽 氏	
158	2/20 (土)	磁石の力で観る蛋白質のはたらき	蛋白質は我々の体の中で様々な姿を示すことで、多様な機能を生み出しています。本公演では強力な磁石を利用して蛋白質の姿を捉える研究を紹介いたします。
		宮ノ入 洋平 氏	
159	2/27 (土)	匂いを感じるしくみ	街を歩いていて感じる芳ばしい焼きたてのパンの香り。途端に幸福感を感じたり、かつての記憶が蘇ったりという経験はありませんか？匂いを感じるしくみは細胞や分子レベルで説明できます。今回は匂いを感じる細胞の情報伝達機構を紹介します。
		竹内 裕子 氏	
160	3/13 (土)	対話型調停の会話分析 －紛争解決の営みを解きほぐす－	「当事者たちだけで」話し合うことで紛争を解決する調停スタイルをとる対話型調停。それは本当にありうるのでしょうか。この講義では具体的な事件処理のデータをもとに、会話分析の手法で調停参加者たちの発言を一行ずつ細かく分析することで「当事者たちだけ」の紛争解決の営みをみていきます。
		李 英 氏	
161	3/13 (土)	体の中の薬のうごき	お薬を飲んだ後、体の中でお薬はどのような動きをするのでしょうか？どのようにして薬効を示すのか。どのようにして体から出ていくのか。体の中でのお薬の運命を分子の目線からお話しします。
		辻野 博文 氏	



# Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。「科学する」とはどのようなことか、研究者とともに考えていきます。それを通して、専門家と一般の方々間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

## 2021年2月20日（土）

### No. 157

「音楽のまち」はどのように創られたのか  
肥後 楽（文学研究科）  
時間：10:30～12:00  
対象：高校生以上

### No. 158

磁石の力で観る 蛋白質のはたらき  
宮ノ入 洋平（蛋白質研究所）  
時間：14:00～15:30  
対象：高校生以上

## 2021年3月13日（土）

### No. 160

対話型調停の会話分析—紛争解決の営みを解きほぐす—  
李 英（法学研究科）  
時間：10:30～12:00  
対象：高校生以上

### No. 161

体の中の薬のうごき  
辻野 博文（総合学術博物館）  
時間：14:00～15:30  
対象：高校生以上

## 2021年2月27日（土）

### No. 159

匂いを感じるしくみ  
竹内 裕子（生命機能研究科）  
時間：14:00～15:30  
対象：高校生以上

## サイエンスカフェ@待兼山

開催方法：本年度はZoom\*による**オンライン配信**で行います \*オンライン会議アプリ

定員：各回とも50名 \*ただし、No. 157～No. 160の講座は昨年度中止回であるため、前年に参加予定であった方を優先致します。ご了承ください。

参加費用：無料

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市立中央公民館

## 申込方法

Webフォームにてお申し込みください。

### Webフォーム

募集開始は2021年1月4日からです。以下のURLからお申し込みください。

[https://www.museum.osaka-u.ac.jp/cgi-bin/cafe-2020-yoyaku\\_date.cgi](https://www.museum.osaka-u.ac.jp/cgi-bin/cafe-2020-yoyaku_date.cgi)

今年度のサイエンスカフェはオンライン会議アプリ「Zoom」による配信で行います。配信の視聴にはパソコン・スマートフォンなどの端末およびインターネット環境が必要です。視聴にかかる通信費等は、視聴する方の負担となります。当日の視聴者のネットワークトラブルについては、対応致しかねますのでご了承ください。

### 申込期間・参加方法

締切は各カフェ開催日の2週間前までです。

期間は各カフェで異なりますので、ご確認をお願い致します。

※募集は先着順と致します。

※当選した方には、申込時にご登録いただいたメールアドレスに参加方法をご連絡致します。

※お申込みの際の個人情報について、利用目的以外の使用は一切いたしません。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

電話番号：06-6850-6284



#### 4. 大阪大学美術部 夏部展 2020 「変わりゆく街、変わらない街」



期 間：2020年9月7日（月）～2020年9月21日（月）

会 場：美術部ホームページ仮想空間にて展示

<http://hanbi.main.jp/>

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により4月から7月の間、大学構内にある部室が使用できず、美術部としての活動も制限を受けました。こうした理由から一度は中止も検討した夏部展ですが、大阪大学総合学術博物館の皆様のご協力により、オンラインでの展示を行うことができました。

新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの日常に大きな変化をもたらしました。多くの企業がテレワークを導入し、私たちの通う大阪大学もメディア授業へと踏み切りました。

「緊急事態宣言」中は多くの飲食店やサービス業が休業し、「街」からは人が消えました。以前の「街」は多くの人が談笑し交流する場所でした。これからの「街」はどうなってゆくのでしょうか。

今回の展覧会は、私たちにとって身近な場所だった「街」をテーマに、変わっていくもの、変わらないもの、変わってよかったもの、変わってほしくないものを手がかりに、私たちの「街」を再構築しました。大きな時代の転換期に、私たちと一緒に改めて街の在り方を見つめなおしてみませんか？

大阪大学美術部 2020年夏部展「変わりゆく街、変わらない街」。どうぞお楽しみください。

2020 年大阪大学美術部

\*\*\*\*\*

#### 「街の変化」

朝の街、真昼の街、夕暮れ時の街…。同じ場所でも、時の流れにともなってその雰囲気はまるで異なるものへと変化します。企画「街の変化」では、明け方は赤、真昼は黄、昼下がりには緑、夕暮れ時は橙、夜は青、深夜を紫といったように、色を用いて時間の変化を表現しました。様々な色合い、変化をお楽しみください。

#### 「四季と街」

企画「四季と街」では、春夏秋冬と街の変化をイラストにしました。時間や季節の経過に伴う街の変化は避けられないものです。しかしそうした変化の中でも、私たちにとって「変わらないもの」があるのではないのでしょうか。季節それぞれの馴染みあるイベントやおいしい食べ物、美しい風景をお楽しみください。

#### 「いろいろな街」

この企画では、それぞれの部員の、街に対するいろいろなイメージを絵にしてもらいました。コロナという非常事態の中、人々が密集して生活する街というのは過去の幻想になってしまいかもかもしれません。いろいろな街を見て、なにかを感じてもらえたらと思います。

\*\*\*\*\*

## 5. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学生 理科展 表彰式・作品発表会

期 間：2020年11月21日（土）

会 場：豊中市教育センター

主 催：豊中市教育センター

共 催：大阪大学総合学術博物館

### 【展示概要】

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び展示・表彰しています。今年度については新型コロナウイルス感染症対策のため、一般公開は行わず受賞者による作品発表会・表彰式のみ実施しました。

### 【受賞作品】

- ・チョコレート救出大作戦!!!～ファットブルーム現象になってしまう原因、防ぎ方、なってしまった時の対処法～  
(南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞 最優秀賞 受賞)
- ・僕らの髪でモーリシャスを救え!!  
(大阪府学生科学賞 優秀賞 受賞)
- ・手触りの違いは摩擦の違いなの？  
(大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・歯車の研究  
(大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・酸性・アルカリ性を調べる指示薬  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・給付金で作れ！オリジナルパソコンを!!  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・「打ち水」効果の研究  
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞 受賞)
- ・食虫植物の不思議  
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞 受賞)

- コケのかんさつ  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- 七色の液体を作ったよ  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- 熱い!冷たい!痛い!皮膚の感覚大実験  
(大阪府学生科学賞 受賞)
- アサガオの種をとことんきずつけてみたら…  
(大阪府学生科学賞 受賞)

## 6. 教員活動報告

### 2020 年度 教員実績表

(2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日)

館 長 永田 靖

特任助教(常勤) 高浦佳代子

#### 【研究・教育部】

資料基礎研究系 准教授 辻野 博文

資料先端研究系 教授 上田 貴洋

准教授 豊田 二郎

准教授 宮久保圭祐

資料情報研究系 教授 橋爪 節也

助教 横田 洋

【資料部】 特任講師(常勤) 伊藤 謙

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
2 学期・共通教育科目[全学部・全学年]	演劇学入門
1 学期・文学部	演劇学講義
2 学期・文学部	演劇学講義
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
通年・文学研究科修士課程	アート・プロデュース論演習
通年・文学研究科修士課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
通年・文学研究科博士前期課程	芸術計画論演習
通年・文学研究科博士前期課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
通年・文学研究科博士後期課程	演劇学博士論文作成演習

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
42	7	1

## 【研究活動】

### 学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
シンガポールの潮州歌劇	永田靖	Arts&Media	Vol. 10	2020年8月
パンデミックの演劇 -アントナン・アルトーを忘れよう	永田靖	演劇学論集 紀要	71号	2020年秋

### 著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
漂流の演劇 維新派のパーспекティブ	永田靖（編著）	大阪大学出版会	483	2020年8月

### その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
不易流行	日本演劇学会会報	2021年2月1日
コロナ禍での／からの演劇	日本映像学会会報	2021年2月1日
維新派とは	毎日新聞	2020年3月1日
コロナ禍での演劇研究	日本演劇学会会報	2020年7月25日

### 学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学の社会学共創と大阪の未来	オンラインセミナー日本ヨーロッパ 芸術文化交流財団	3月31日 ～4月7日	シンポジウム
オーストラリア日系移民と私たち ／イントロダクション	オンライン大阪大学徴しの上を鳥が 飛ぶⅡ	2021年 2月21日	セミナー
チェーホフからソン・ギウンへ	オンライン大阪大学徴しの上を鳥が 飛ぶⅡ	2021年 1月16日	講演会
忠臣蔵・急 ポリティクス／首	伊丹アイホール	2020年 12月14日	アフタートーク
維新派の舞台美術と野外演劇	スタンダードブックストア	2020年 10月10日	上映会&トーク イベント
維新派の、ことば・空間・身体	スタンダードブックストア	2020年 9月13日	ブックラウンチ



研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
“Asian Theatre and War” , Closing address	Online Meeting	9 <sup>th</sup> , January, 2021	IFTR Asian Theatre Working Group
“Theatre at a Critical Point” , Opening address	Online Conference	7 <sup>th</sup> , November, 2020	the 8 <sup>th</sup> international Asian Theatre Studies conference,
Urban-development and Burial in “JUNCTION”	IFTR Galway Conference, Ireland	2020年7月	コロナ禍により中止

【学会等企画運営】

学会名	開催地	役割	期間
Asian Theatre and War, IFTR Asian Theatre Working Group On Line Meeting	Osaka University, On Line	Convener	9, January, July, 2020
The 8 <sup>th</sup> International Asian Theatre Studies Conference; Theatre at a Critical Point	Osaka University, On Line	Organizer	7-8, November, 2020

【共同研究および外部資金獲得状況】

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究補助金基盤（B）	永田靖	平成29年～	継続
大学を活用する文化芸術推進事業（文化庁）	永田靖	令和2年～	新規

【学外各種委員など】

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
日本演劇学会会長	2013年6月		継続
International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Convener	2009年6月		継続
兵庫県立尼崎青少年創造劇場企画委員長	2013年4月		継続
吹田市文化振興事業団理事	2014年4月		継続
大阪府市文化芸術審議会委員	2020年6月		新規
豊中市立文化芸術審議会委員	2015年6月		継続

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
芍薬(PAEONIAE RADIX)の自給向上に関する栽培技術の検討 園芸的手法の導入による栽培管理の省力化	矢野孝喜、川嶋浩樹、吉越恆、福田浩三、高浦佳代子、高橋京子	薬用植物研究	42(2)・1-9	2020年
A novel challenge of nondestructive analysis on OGATA Koan's sealed medicine by muonic X-ray analysis.	Shimada-Takaura K, Ninomiya K, Sato A, Ueda N, Tampo M, Takeshita S, Umegaki I, Miyake Y, Takahashi K	Journal of Natural Medicines	75(3)・532-539 doi: 10.1007/s11418-021-01487-0	2021年

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	掲載誌名	発表年月
Muonic X-ray Analysis of Bottled Kampo Medicines Used in the Edo Period [J-PARC 2019B0314]	KEK-MSL REPORT 2019 (KEK Progress Report 2020-4), 102	2020年
安全・高品質な国産サフラン生産拡大のためのアクションリサーチ:アグリセラピーへの応用と地域健康力の向上	日本食品化学研究振興財団 第26回 (平成31年度)研究成果報告書, 69-75	2020年
薬用作物栽培の手引き～薬用作物の国内生産拡大に向けて～シャクヤク編、オタネニンジン編、トウキ編、カンゾウ編、ミシマサイコ編	農林水産省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」成果物(分担執筆)	2021年

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日
Muonic X-ray analysis of bottled Kampo medicines used in the Edo period.	2019年度 J-PARC/MUSE 成果報告会、オンライン開催	2020年6月30日 -7月1日

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
ミュオンビームを活用した緒方洪庵の開栓不能薬の成分解明	文化財保存修復学会 第42回大会、熊本 (Web開催)	2020年6月20日 -21日	口頭発表→ 予稿集発表へ 変更
緒方洪庵の晩年期薬箱収載麻薬関連薬物の検証	第37回和漢医薬学 会学術大会、京都 (Web開催)	2020年8月29日 -30日	口頭発表
吃逆治療薬「柿蒂」の国産化：医療ニーズに即した生産体制の構築と課題	日本薬学会第141年 会、広島(Web開催)	2021年3月26日 -29日	ポスター発表
インドジャボクの鏡検による鑑別	日本薬学会第141年 会、広島(Web開催)	2021年3月26日 -29日	ポスター発表

報道

タイトル	場所	年月日	備考
緒方洪庵の「開かずの薬瓶」、中身は…？ 素粒子で透視	朝日新聞	2021年3月19日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
農林水産省 委託プロジェクト研究 市場開拓に向けた取組を支える研究開発 「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」	川嶋 浩樹	2016年度 -2020年度	継続
日本学術振興会 科研費 基盤研究(C)「博物資料利活用のパラダイムシフト：なにわ発・薬業遺産アーカイブ」	高浦 佳代子	2018年4月 -2021年3月	継続

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
緒方洪庵全集編集委員会	2020年4月		新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・薬学部	分析化学Ⅲ
春～夏学期・薬学部	基礎実習Ⅱ
夏学期・薬学部	生物物理化学特論
夏学期・薬学研究科博士前期課程	生物物理化学特別講義
夏学期・薬学研究科博士課程	生物物理化学特別講義
秋～冬学期・薬学部	衛生薬学3-毒性学・安全化学-

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
11名	1名	-

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
死因診断学総論	大阪大学	2020年7月25日
出張講義・実習	北野高校	2020年11月12日、18日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Nanoporous gold based electrodes for electrochemical studies of human neuroglobin	Mie Y, Takahashi K, Itoga Y, Sueyoshi K, <u>Tsujino H</u> , Yamashita T, Uno T.	Electrochemistry Communications	106621	2020
Absorption, Fluorescence, and Two-photon Excitation Ability of 5-Phenylisolidolo[2,1-a]quinolines.	Francisco A., Qiao L., Fujii Y., Otomo K., Ishii H., Suzuki T., <u>Tsujino H</u> , Uno T., Tsutsumi Y., Kawashima Y., Takagi T., Murai K., Nemoto T., Arisawa M.	ACS Omega	27:5(5):24 73-2479	2020

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Progesterone receptor membrane component 1 leads to erlotinib resistance, initiating crosstalk of Wnt/ $\beta$ -catenin and NF- $\kappa$ B pathways, in lung adenocarcinoma cells.	Lin Y., Higashisaka K., Shintani T., Maki A., Hanamuro S., Haga Y., Maeda S., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Fujio Y., Tsutsumi Y.	Sci. Rep.	10(1):4748	2020
Redox State Control of Human Cytochrome c by Direct Electrochemical Method to Investigate Its Function in Molecular Basis	Mie Y., Takahashi K., Torii R., Jingkai S., Tanaka T., Sueyoshi K., <u>Tsujino H.</u> , Yamashita T.	Chem Pharm Bull	68(8):806-809	2020
Development and evaluation of a system for the semi-quantitative determination of the physical properties of skin after exposure to silver nanoparticles.	Tao H., Nagano K., Tasaki I., Zhang TQ., Ishizaka T., Gao JQ., Harada K., Hirata K., <u>Tsujino H.</u> , Higashisaka K., Tsutsumi Y.	Nanoscale Res Lett.	15(1): 187	2020
Silver nanoparticles induce DNA hypomethylation through proteasome-mediated degradation of DNA methyltransferase 1.	Maki A., Lin Y., Aoyama M., Sato K., Gao JQ., <u>Tsujino H.</u> , Nagano K., Higashisaka K., Tsutsumi Y.	Biol. Pharm. Bull	43(12): 1924-1930	2020

#### 研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
ナノ銀粒子による神経細胞でのアミロイド $\beta$ 発現増加とその誘導機序の解明に向けた検討	第47回日本毒性学会	2020年6月	
獲得免疫系を介した非晶質ナノシリカのハザード同定と物性との関連解析	第47回日本毒性学会	2020年6月	
Forskolin 誘導性の BeWo 細胞合体化に対する銀ナノ粒子の影響解析	第47回日本毒性学会	2020年6月	
新規高水溶性非晶質クルクミンの開発と抗酸化作用の解析	奈良	2020年9月	
クルクミンの水溶性向上が抗酸化機能に与える影響評価	日本薬学会第141年会	2021年3月	

タイトル	場所	年月日	備考
特殊なヘム環境を持つサイトグロビンの反応性	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
フェロトキシ誘導における PGRMC1 の役割解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
Triple Negative 乳がんにおける Dasatinib 初期耐性の機序解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
マクロファージの M2 サブタイプへの分極におけるインテグリン受容体の役割解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
非晶質ナノシリカの獲得免疫系を介したハザード発現を規定する因子の同定に向けた検討	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
乳がん遠隔転移におけるプロスタグランジン I <sub>2</sub> の機能解析	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
cAMP シグナル経路を介した BeWo 合胞体化の誘導に対する銀ナノ粒子の影響解析	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
非晶質ナノシリカ曝露によるエンドサイトーシス障害の評価	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
銀ナノ粒子が神経細胞の分化におよぼす影響評価	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
マクロファージにおけるインドキシル硫酸誘導性の炎症応答機序の解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
オシメルチニブ抵抗性細胞におけるフェロトキシ促進剤の感受性評価	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
JK ループに着目した IDO1 の基質認識機構の解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
胎盤細胞の免疫制御に対する非晶質ナノシリカの影響解析	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
近位尿細管の上皮間葉転換において細胞外マトリクス構成蛋白質が果たす役割の解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
トリプルネガティブ乳がんにおける PARP 阻害剤の新規治療法確立に向けた検討	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
ナノマテリアルの in vitro 感作性評価系の構築に向けた基礎検討	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	
高濃度 EGFR-TKI 曝露条件下における非小細胞肺癌細胞の生存機構の解明	日本薬学会第 141 年会	2021 年 3 月	

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

##### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
国立研究開発法人日本医療研究開発機 (AMED) 医薬品等規制調和・評価研究事業 「核酸医薬を高感度・高精度に分離分析する技術の開発と品質と安全性評価への応用」	辻野 博文	2018 年度～ 2021 年度 (延長)	継続

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
日本学術振興会 基盤研究 B 「確率可制御性縮約による機械学習援用制御手法の可解釈性獲得」	加嶋 健司	2018 年度～ 2021 年度	継続
日本学術振興会 基盤研究 C 「疾患に関与する金属蛋白質のレドックス制御基盤の構築と創薬展開」	三重 安弘	2019 年度～ 2021 年度	継続

#### 【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
サイエンスカフェ@待兼山(大阪大学総合学術博物館)・体の中の薬のうごき	オンライン開催	大阪大学 総合学術博物館	令和2年 3月13日

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
男女協働推進センター兼任教員	令和2年4月		新規
アーカイブズ運営委員会	令和2年10月		新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・共通教育・専門基礎科目[理学部・1 年生]	化学基礎論 BI
1 学期・共通教育・専門基礎科目[理学部・1 年生]	化学基礎論 BII
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究
通年・理学部化学科・4 年生	化学文献調査
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学(I)（共担）
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
1 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
2 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
2 学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーI
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーII
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
1 名（理学研究科化学専攻）		
1 名（理学部化学科）		

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
杉下友晃（理学研究科化学専攻） Space Selective Spin-Correlated Polarization Components Observed by Solid-State NMR with High-Field Dynamic Nuclear Polarization and Magic-Angle Spinning （高磁場動的核分極法およびマジック角試料回転を利用した固体 NMR により観測される空間選択的なスピン相関偏極成分）	副査
安渡 佳典（理学研究科化学専攻） Au のヘテロ接合効果と反応性に関する理論的研究	副査



【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Structural Dynamics of An ELM-11 Framework Transformation Accompanied with Double-Step CO <sub>2</sub> Gate sorption: An NMR Spin Relaxation Study	Kazuki Ohazama, Takahiro Ueda*, Kazuki Ukai, Manami Ichikawa, Hyuma Masu, Hiroshi Kajiro and Hirofumi Kano*	Crystals	10, 328	2020.04
金属有機複合体 IRMOF-1 が提供する ミクロ空間における有機分子の動的挙 動と相転移現象	上田 貴洋	熱測定 (Netsu Sokutei)	47(2), 64-69	2020.04
1次元および2次元ナノ空間における水 分子の特異な動的挙動	上田 貴洋	Acc. Mater. Surf. Res.	6 (1), 1-10	2021.02

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
金属有機複合体 IRMOF-1 に吸着され た有機分子集団の動的挙動と相転移 現象	第 56 回熱測定討論会・ミニシン ポジウム「微小空間への吸着・ 包接に関わる化学・物理現象」	2020.10.27-28	招待講演・ オンライン開催

研究（学会）発表の世話人、座長、受賞審査など

学会・研究集会など（場所）	年月日	件数	備考
吸着基礎セミナー「吸着等温線の解析の実際」 （オンライン開催）	2021年1月12日、19日、26日	3件（座長）	世話人

【社会貢献、管理運営等】

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
図書館委員会委員	2012年4月		継続
総合図書館図書選定小委員会委員	2012年4月		継続
計画・評価委員会 委員	2014年4月		継続
大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業 記念出版・展示実行委員会委員	2017年1月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本吸着学会 運営委員会	運営委員長	2019年4月～	継続
日本吸着学会	理事（企画担当）	2019年4月～	新規
豊中市学校教育審議会委員	副委員長	2019年4月～	継続
大阪大学生協	教職員理事	2014年5月～	継続
大阪大学生協	教職員常任理事	2017年5月～	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春学期・工・1	化学基礎論 AI
夏学期・工・1	化学基礎論 AII
春～夏学期・歯、基礎工・2	化学実験
春～夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)
夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)
冬学期・医・歯・基礎工・2	基礎化学実験

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
ODINS 運用部会 部局ネットワーク担当者	2002年4月1日		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
秋学期・工学部・1年	化学基礎論 BI
冬学期・工学部・1年	化学基礎論 BI
夏学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学（分担）

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
トークとミニコンサート 「北大阪と日本万国博覧会」	豊中市立文化芸術 センター	豊中市 大阪大学総合学術博物館	2020/7/15

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
全学教育推進機構 専門基礎教育部門 化学部会	2018/04		継続
豊中地区安全衛生委員会	2015/04		継続
総合学術博物館湯川記念室	2015/04		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春夏・全学教育推進機構	東洋美術史
秋冬・文学部	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	世界のなかの日本美術
秋冬・博士後期課程	日本美術特殊講義
春夏・文学部	日本美術史演習
秋冬・文学部	日本美術史演習
春夏・博士前期課程	日本美術史演習
秋冬・博士前期課程	日本美術史演習
春夏・博士後期課程	日本美術史特殊演習
秋冬・博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習
通年・博士前期課程	日本美術史演習
通年・博士後期課程	日本美術史特殊演習
夏・文学部	東洋美術史演習
秋冬・文学部	東洋美術史演習
通年・文学部	博物館学(学内実習)
通年・文学部	芸術計画論演習
春夏・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
秋冬・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
春夏・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
秋冬・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
通年・修士課程	芸術計画論演習
秋・工学研究科地球総合工学科・学部1年	学外研修
社会人・学生	徴しの上を鳥が飛ぶー文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
21	3	3

## 学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
浜野 真由美 博士論文 「近世初期の宮廷における書画制作の諸相—近衛信尹の書作を中心に—」	副査
國井 星太 修士論文 「浦上玉堂の画風形成に関する試論—鴨方藩士時代を中心に—」	主査
大崎 瑠生 修士論文 「近世初期における作仏聖の成立—弾誓派の造像を中心に—」	副査
佐藤 優 修士論文 「金光明最勝王經金字宝塔曼荼羅図の再検討」	副査
池田 泉 修士論文 「土佐光起の鶉図—絵画の伝統と現実世界のはざままで—」	副査

## 学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
古美術研究旅行	愛知県立芸術大学	2020年10月
美術館論	放送大学	2020年12月
古美術研究旅行	広島市立大学	2020年11月

## 【研究活動】

### 学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「『瞳は精神よりも欺かれることが少ない』—大阪と美術家／松本雄吉の周辺をめぐる—」	橋爪節也	永田靖編『漂流の演劇 維新派のパーспекティブ』大阪大学出版会		2020年 8月10日
「大大阪と画家たち 第五回 鍋井克之の「大阪ざらい物語」と「風流座」 “大阪魂”と葛藤する洋画家の深層」	橋爪節也	『やそしま』関西・大阪21世紀協会、上方文化芸能運営委員会	第14号 69～144頁	2020年12月
「『白い巨塔』と戦後復興から高度成長期の大阪の都市イメージ(2)」	橋爪節也	大阪商業大学商業史博物館紀要	第18号 47～92頁	2021年 2月10日
「大大阪モダニズムと分離派—街に浸透する美意識」	橋爪節也	田路貴浩編『分離派建築会 日本のモダニズム 建築誕生』京都大学学術出版会	264頁 ～280頁	2020年10月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
『大正昭和レトロチラン 商業デザインにみる大大阪』	橋爪節也	青幻舎	全 255 頁	2020 年 6 月
『原寸復刻「浪花百景」集成』	橋爪節也	創元社	全 189 頁	2020 年 11 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「玉堂 ミーツ 文晁-「兼葭堂日記」から」	「玉堂清韻社報」第 10 号、 浦上家史編纂委員会	2020 年 4 月
「「大阪心齋橋専門商店案内」付記」	『大阪春秋第 178 号—四條畷— —サンタクロースと出会うまち—』 新風書房、104 頁	2020 年 4 月
「河内洋画材料店は、大阪の洋画の歴史だった」	『心齋橋 KAWACHI100 年』 4～18 頁	2020 年 6 月 1 日
「ペーパースクリーンの光芒 志野和男の現在」	「版画芸術」No. 189 2020 秋 阿部出版 96～103 頁	2020 年 9 月 1 日
「電気大博覧会会場全景図絵（大正 15 年）」	『大阪春秋』180 号—メディアと 上方の芸能—、新風書房	2020 年 10 月
「中村貞夫の藝術 四大文明から大阪風景への 回帰」	大阪大学総合学術博物館ホームペ ージ	2020 年 11 月～ 12 月 6 回連載
「新おおさか KEY わーど」第 1 回 「大阪市を見守って—世紀 西欧に倣っても気 持ちは聖なる守護神」	「いちよう並木」No.444、表紙と 3 頁、大阪市生涯学習センター編集、 大阪市教育委員会発行	2020 年 4 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 2 回 「歴史に学び、社会を再考する機会かもしれな い」	「いちよう並木」No.445、大阪市生 涯学習センター編集、大阪市教育 委員会発行 表紙と 3 頁	2020 年 5 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 3 回 「スペイン風邪の記憶 100 年前のパンデミック —感染症は文化芸術にも影を落とす 公会堂ゆか りの辰野金吾も犠牲に」	「いちよう並木」No.446、大阪市生 涯学習センター編集、大阪市教育 委員会発行 表紙と 3 頁	2020 年 6 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 4 回 「いつの時代もシンブラ気分 浮世絵や写真にタ イムトラベルしてみると」	「いちよう並木」No.447、大阪市生 涯学習センター編集、大阪市教育 委員会発行 表紙と 3 頁	2020 年 7 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 5 回「シルエットで 記憶する大阪の山々 プラネタリウムの思い出— 三方が山で一方が海 ランドマークは生駒山	「いちよう並木」No.448、大阪市生 涯学習センター編集、大阪市教育 委員会発行 表紙と 3 頁	2020 年 8 月 10 日

タイトル等	報道機関名	報道年月
「新おおさかKEYワード」第6回 「買い物にでもいきまへんか これも大阪、あれも大阪、大大阪時代のチラシ」	「いちょう並木」No.449、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2020年9月10日
「新おおさかKEYワード」第7回 「大阪のアートを支えた老舗の記念の年 ホルベイン画材とワカチ画材」	「いちょう並木」No.450、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2020年10月10日
「新おおさかKEYワード」第8回 「浪花百景 虫の音も浪花名物 コオロギのビルディングは物憂げ」	「いちょう並木」No.451、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2020年11月10日
「新おおさかKEYワード」第9回 「コロナを越えて“文化の力”は街を変えるかなにわの企業が集めた「絵画の物語」はつづく」	「いちょう並木」No.452、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2020年12月10日
「新おおさかKEYワード」第10回 「「おちよやん」とエジプト風 エキゾチックな大阪」	「いちょう並木」No.453、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年2月10日
「新おおさかKEYワード」第11回 「“扇町マナビバ” 都市公園の新しい可能性-市民の財産としての公園 扇町プールの思い出と平成中村座」	「いちょう並木」No.454、大阪生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2021年3月10日
「絵を飾る人のキモチ」第24回 少年時代の記憶がよみがえると -オンライン授業と「死の舞踏」、バンクシー、スペイン風邪のこと-	いきかたのカタチ 積水ハウス株式会社 住ムフムラボ (うめきたグランフロント大阪ナレッジキャピタル) <a href="http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/">http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/</a>	2020年6月25日
「絵を飾る人のキモチ」第25回 最終回 大阪チラシ学 事始め～生き馬の目を抜く商魂のたくましさ	いきかたのカタチ 住ムフムラボ	2020年11月24日
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 32」 聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋』178号—四條畷—サ ンタククロスと出会うまち—、 新風書房	2020年4月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 33」 聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋』179号—きらめけ！ 富田林一、新風書房	2020年7月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 34」 聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋』180号—メディアと上 方の芸能—第177号—、新風書房	2020年10月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 35」 聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋』181号—浜寺ものがた り— 新風書房	2021年



## 学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
オンライン講演会「博覧会の記憶と大阪——第五回国博から EXPO' 70 まで」	吹田市立博物館	2020年10月3日 ～11月29日	吹田市立博物館秋季特別展「万国博覧会“人類の進歩と調和”に至るまで」
講演会「遙かなる EXPO' 70-大阪万博の時代と記憶、アートー」	吹田市立中央図書館	2021年2月21日	吹田市立中央図書館再開館記念講座
オンライン講演「大阪の将来ビジョン～大坂の町人気質から考える～」	日本ヨーロッパ・芸術文化交流財団	2021年3月	

## 研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
研究発表「雑誌『道頓堀』に描かれた大正時代の宗右衛門町」	オンライン開催	2021年3月30日	科学研究費助成事業：「戦前期大阪花街の社会的機能に関する基礎的研究」（2018～2020）研究代表者 笠井純一

## 報道

タイトル	場所	年月日	備考
インタビュー記事「50年後からみた EXPO'70」	朝日新聞夕刊	2020年7月14日	
インタビュー記事「幕末の浪花巡る錦絵-歌川派合作102点復刻」	読売新聞夕刊文化欄	2021年1月21日	

## 【社会貢献、管理運営等】

### 講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
基調講演「記憶と創造 「大阪百景⇄未来景」	大阪市立北区民センター 大ホール	「フォーラム 扇町マナビバ 大公園からネットワークする新しい時代のまちづくりピア」 主催：NPO 法人もうひとつの旅クラブ（旅クラブ）、共催：都市環境デザイン会議（JUDI）、後援・運営協力：一財大阪市コミュニティ協会・北区民センター	2020年 11月21日
オンライン講座「一茶庵で学ぶ！ 文人・十時梅厓」	一茶庵	一茶庵	2020年7月
大阪大学総合学術博物館デジタルミュージアム第14回特別展解説			2020年

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大正イマジュリイ学会	常任委員		継続
一般財団法人懐徳堂記念会	評議員		継続
大阪市民表彰審査会	臨時委員	各年毎に就任	継続
八尾市今東光記念館	展示アドバイザー		継続
NPO 大阪美術市民会議	理事		継続
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー		継続
田辺市立美術館協議会	協議会委員	2017年～	継続
大阪市文化財保護審議委員	委員	2020～	新規
財団法人・天門美術館評議委員会	評議員	2016年～	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・2、3、4年	博物館学（学内実習）
春～夏・文学部・文学研究科・2、3、4年 博士前期課程・博士前期課程	演劇学講義・演劇学特殊講義 芸術環境論講義

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
映画の歴史	大手前大学	2020年9月～ 2021年3月

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究（C） 「人形資料に基づく乙女文楽の芸能史的発展研究」	林公子	2019年度～ 2021年度	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・3回生以上	博物館学(学内実習)
1回生	大阪大学の歴史

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
バーチャル展示シュミレータを利用したデータキュレーション	伊藤謙他 3 名 (3 番目)	教育 PRO	通巻 1930 号, 20-21	令和 3 年 3 月 16 日

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
CHINA GRAPHY -日本のまなざしに映った中国	伊藤謙他 2 名 (3 番目)	国際日本文化 研究センター	200	2021 年 3 月

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
カンキツの起源と分類の再構築 - 田中長三郎のさく葉標本と研究ノート of 解析 - 研究課題	分担	2020-2023	新規

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
豊中地区研究交流会委員会	2020 年 4 月		新規



## 7. 資料

### 掲載項目

- ・ 2020 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

# 2020 年度の主な活動一覧

期間	主な活動
2020 年	
3月3日～6月21日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
6月22日～8月1日	大阪大学総合学術博物館 第 14 回特別展「なんやこりゃ EXPO'70 -大阪万博の記憶とアート」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市 共催：豊中市市民ホール指定管理者 協力：北大阪ミュージアム・ネットワーク、京都市立芸術大学、公益財団法人阪急文化財団、吹田市立博物館、大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
7月25日	特別展関連イベント「トークとミニコンサート」を開催した。(登壇者：大阪大学総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐、アーティスト 伊達 伸明氏、ギタリスト 大西 洋二郎氏、西永 愛氏 (会場：豊中市立文化芸術センター 多目的室)
9月7日～9月21日	大阪大学美術部 夏部展 2020「変わりゆく街、変わらない街」をオンライン開催した。(主催：大阪大学美術部 共催：大阪大学総合学術博物館 会場：大阪大学美術部ホームページ)
10月31日～1月30日	大阪大学総合学術博物館 第 23 回企画展「CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、国際日本文化研究センター 共催：大阪大学大学院言語文化研究科 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
11月21日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展 表彰式・作品発表会」を開催した。(主催：豊中市教育センター 共催：大阪大学総合学術博物館 会場：豊中市教育センター)
11月29日	企画展関連イベント シンポジウム「『日本のまなざしに映った中国』を語る」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 特任講師(常勤)伊藤 謙、国際日本文化研究センター 教授 劉 建輝氏、大阪大学大学院言語文化研究科 教授 深尾 葉子氏 会場：オンライン開催)
2021 年	
2月20日	サイエンスカフェ@待兼山 No.157 「『音楽のまち』はどのように創られたか」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学社会技術共創研究センター 特任研究員 肥後 楽氏 会場：オンライン開催)
2月20日	サイエンスカフェ@待兼山 No.158「磁石の力で観る 蛋白質のはたらき」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学蛋白質研究所 准教授 宮ノ入 洋平氏 会場：オンライン開催)
2月27日	サイエンスカフェ@待兼山 No.159「匂いを感じるしくみ」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院生命機能研究科 准教授 竹内 裕子氏 会場：オンライン開催)
3月13日	サイエンスカフェ@待兼山 No.160「対話型調停の会話分析」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学大学院法学研究科 特任助教 李 英氏 会場：オンライン開催)
3月13日	サイエンスカフェ@待兼山 No.161「体の中の薬のうごき」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学総合学術博物館 准教授 辻野 博文 会場：オンライン開催)

# 入館者数集計結果一覧

・2020年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

第14回特別展

会期：6月22日(月)～8月1日(土)

入館者数：1,064人

第23回企画展

会期：10月31日(土)～1月30日(土)

入館者数：1,225人

休館日：日曜・祝日

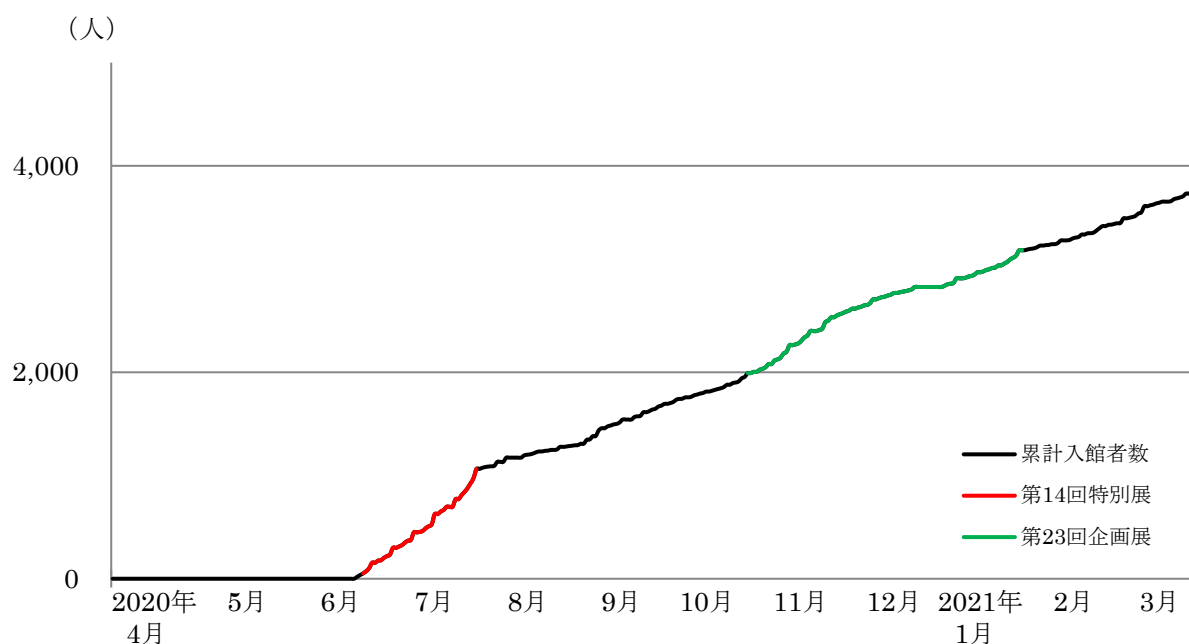
年末年始休業およびメンテナンス休館：

12月28日(月)～2021年1月4日(月)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

4月1日より6月21日まで臨時休館

	入館者数
2020年4月	0
5月	0
6月	179
7月	794
8月	307
9月	366
10月	346
11月	561
12月	273
2021年1月	355
2月	235
3月	417
合計	3,833





# 団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
2020年					
1	11月26日	木	奈良市立一条高校	32	上田

# 関連記事一覧

## 新聞

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内容
2020年				
1	7月14日	火	朝日新聞（大阪） 夕刊	第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70」

## その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内容
1	「魅力発見 BOOK - 大阪 大学-」 / 河合塾広報誌	2020年4月	施設案内
2	中学校理科教科書「未来 へひろがるサイエンス3」 / 株式会社新興出版社啓 林館	2021年～	マチカネワニ化石
3	OSAKA モノレール Press	2020年7月1日 / Vol. 248	第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70」
4	広報とよなか	2020年7月号 / Vol.843	文化・にぎわい 第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70」
5	(株)西島製作所 社内報	第213号 2020夏	施設案内
	朝日新聞	2020年11月10日 夕刊「美術館・博物館表」	第23回企画展「CHINA GRAPHY」
6	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	2020年11月23日	第23回企画展「CHINA GRAPHY」

## インターネット

No.	掲載ホームページ	内容
1	阪急電鉄	第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70」
2	豊中市	第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70」
3	生きた建築 ミュージアムフェスティバル大阪 2020	施設紹介
4	アルファ国際学院大阪本校	施設紹介

# 寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	根津美術館	川上不白生誕三百年 特別展 江戸の茶の湯
2	福井県立歴史博物館	令和元年度 夏季特別展 家事・家電・家庭のうつりかわり -主婦の近代-
3	福井県立歴史博物館	特別展 ふくいの鎮守さま 神と真宗道場が織りなす信仰世界
4	三重県総合博物館	三重の仏像 白鳳仏から円空まで
5	関西大学博物館	春季企画展 びいどろギヤマンガラス展 ガラス器を愛で愉しむ
6	太子町立竹内街道歴史資料館	令和元年企画展 四方院の寺宝 -三尼公の遺光-
7	大阪城天守閣・長浜市長浜城歴史博物館	豊臣家ゆかりの“天女の島” びわ湖竹生島の歴史と宝物
8	根津美術館	虎屋のおひなさま
9	京都市立芸術大学	霧の街のアーカイブ 聞こえないを聴く 見えないを観る
10	ミネルヴァ書房	アートがひらく地域のこれから
11	茨木市教育委員会 大阪府文化財センター	太田遺跡・太田廃寺跡 大阪府文化財センター調査報告書
12	茨木市教育委員会	令和元年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報
13	茨木市教育委員会	下穂積遺跡 1
14	茨木市教育委員会	千堤寺菱ヶ谷遺跡 1
15	長野県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書	長野市 小島・柳原遺跡群
16	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 佐久穂町
17	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 佐久市 北畑遺跡群
18	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 佐久市 地家遺跡
19	根津美術館	根津美術館紀要 此君 特集 光村コレクションの諸相
20	福井県立歴史博物館	福井県立歴史博物館 紀要
21	住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館	大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）研究紀要／館報
22	金沢大学資料館	金沢大学資料館 紀要
23	大阪商業大学大阪商業史博物館	大阪商業大学商業史博物館 紀要
24	大阪市立美術館	大阪市立美術館 紀要
25	関西大学博物館	関西大学博物館 紀要
26	和歌山市立博物館	和歌山市立博物館 紀要
27	小樽市総合博物館	小樽市総合博物館 紀要
28	東北大学総合学術博物館	東北大学総合学術博物館 紀要
29	関西大学なにわ大阪研究センター	なにわ大阪と本山彦一 大正期大阪への貢献と本山考古室 研究成果報告書
30	九州産業大学	九州産業大学美術館 年度報告書
31	國學院大學博物館	國學院大學博物館 研究報告
32	鳥取大学地域学部附属 芸術文化センター	地域を知り、地域で実践する アートマネジメント講座 2019 事業報告書
33	帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所 研究報告
34	帝塚山大学考古学研究所	聖徳太子関連遺跡の研究 -法隆寺創建瓦生産窯の調査-
35	京都歴史文化施設 クラスター実行委員会	ICOM 京都大会からみた あたらしいミュージアムのかたちとは？
36	博物館マネジメント人材育成事業 実行委員会	令和元年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」実施報告書
37	熊本大学五高記念館	昭和期の第五高等学校 調査報告
38	和歌山市立博物館	和歌山市史研究
39	大阪大学大学院言語文化研究科	言語文化研究
40	大阪市立大学 恒藤記念室	恒藤記念室 叢書
41	三重県総合博物館	三重県総合博物館 資料叢書
42	三重県総合博物館	三重県総合博物館 年報
43	大東市立歴史民俗資料館	大東市立歴史民俗資料館 館報
44	伊丹市立美術館	伊丹市立美術館 館報
45	太子町立竹内街道歴史資料館	太子町立竹内街道歴史資料館 館報
46	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館 館報
47	西宮市大谷記念美術館	西宮市大谷記念美術館 NEWS

No.	寄贈者	書名
48	和泉市久保惣記念美術館	土佐派源氏絵研究
49	和泉市久保惣記念美術館	特別展 土佐派と住吉派 -やまと絵の荘思と軽妙-
50	和泉市久保惣記念美術館	特別展 絵画でランデブー 東西美術の出会い
51	和泉市久保惣記念美術館	ピカソと日本美術 -線描の魅力-
52	佐賀大学地域学歴史文化センター	絵本 鍋島直正 -「鍋島直正公御実歴一百図」を読む
53	神戸大学大学院海事科学研究科 海事博物館	海事博物館企画展 図録 2019 和船の活躍した時代
54	三重県総合博物館	名所発見、再発見! 浮世絵でめぐる三重の魅力
55	三重県総合博物館	ボタニカルデザイン -植物のかたち、その観察-
56	手塚山大学附属博物館	手塚山大学附属博物館蔵品図版目録 民族 I
57	きしわだ自然資料館	きしわだ自然資料館 研究報告
58	茨木市教育委員会	茨木市歴史的建造物 調査報告書 I 神社編
59	京都国立近代美術館	「感覚をひらく -新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」令和元年 成果物
60	鹿児島大学総合研究博物館	Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu
61	大阪狭山市教育委員会	史料 狭山池とともに
62	大阪城天守閣	大坂加番記録-安政五年八月~安政六年八月、山里加番加藤明軌
63	京都大学総合博物館	第三高等学校由来物理教育実験機器資料
64	伊丹市立博物館	伊丹城(有明城)-主郭部の発掘調査を中心として-
65	大阪城天守閣	大阪城天守閣 紀要
66	三重県総合博物館	三重県総合博物館 紀要
67	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム 研究紀要
68	和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館 紀要
69	筑波大学	筑波大学アーカイブズ 年報
70	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館 年報
71	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館 年報
72	神戸大学大学院海事科学研究科 海事博物館	海事博物館研究 年報
73	吹田市立博物館	吹田市立博物館 館報
74	茨木市立文化財資料館	茨木市立文化財資料館 館報
75	国立科学博物館	ミルシル 特集おいしくて育てやすい作物育成への挑戦 ~農作物と品種改良~
76	大阪歴史博物館	明治の浮世絵師たちが描く 浮世絵ねこの世界展 ニャンダフル!
77	大阪歴史博物館	決定版 刀装具鑑賞入門
78	新修宗像市史編集委員会	熊本城特別公開記念 追憶の熊本 画家・甲斐青汗が描いた熊本城下の記憶
79	新修宗像市史編集委員会	宗像市史研究 第3号
80	関西大学なにわ大阪研究センター	なにわ大阪研究
81	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 五反田遺跡発掘調査概要報告書
82	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 広瀬地区・桜井地区遺跡範囲確認調査委概要報告
83	滋賀大学経済学部附属資料館	滋賀大学経済学部附属資料館 研究紀要 第53号
84	八尾市立歴史民俗資料館	八尾市立歴史民俗資料館 研究紀要 第31号
85	島本町立歴史文化資料館	島本町立歴史文化資料館 館報 第11号
86	熊本博物館	熊本博物館 館報 2019年度報告
87	神奈川県立 生命の星・地球博物館	神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 2019年度
88	姫路科学館	姫路科学館 収蔵資料目録 小林平一コレクション昆虫編7 タテハチョウ科
89	柏原市立歴史資料館	龍田古道 あの山を越えれば 令和元年度春季企画展
90	柏原市立歴史資料館	橿原市立歴史資料館 館報 第32号
91	柏原市立歴史資料館	末吉康三郎家 文書目録
92	柏原市立歴史資料館	河内国志紀郡柏原村 柏元家 文書目録IV
93	九州大学総合研究博物館	九州大学総合研究博物館 研究報告 第17号 2020年6月
94	九州大学総合研究博物館	2019-2020 概要
95	西南学院大学	西南学院大学博物館 年報 2018
96	西南学院大学	西南学院大学博物館 年報 2019
97	西南学院大学	西南学院大学博物館 研究紀要
98	人間文化研究機構	国立歴史民俗博物館 要覧
99	仙台市博物館調査研究報告	仙台市博物館 調査研究報告 第40号

No.	寄贈者	書名
100	和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館 館報
101	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム 紀要 第1号
102	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム 資料研究報告 第4号
103	島根大学 研究・学術情報機構 総合博物館	島根大学 研究・学術情報機構 総合博物館 年報 平成29・30・31年度
104	京都市学校歴史博物館	京都市学校歴史博物館 年報 2018
105	京都市学校歴史博物館	京都市学校歴史博物館 年報 2019
106	大阪大学大学院文学研究科 芸術学・芸術史講座	フィロカリア 第37号 2020年3月
107	京都市芸術文化協会	京文藝 京都市芸術文化情報誌 伝える・つなぐ 京都の(創造)
108	国立科学博物館	ミルシル 北極
109	吹田市立博物館	万国博覧会 “人類の進歩と調和” に至るまで
110	たばこと塩の博物館	江戸のおもちゃ絵
111	たばこと塩の博物館	2019年度 年報
112	国立民族学博物館	先住民の宝
113	大阪城天守閣	テーマ展 秀吉の生涯
114	きょうと視覚文化振興財団	須田記念 視覚の現場 特集コレクションと美術
115	堺市博物館	描かれた仏の世界
116	堺市博物館	わたしたちの歴史を編む - 『堺市史』とその時代 -
117	堺市博物館	貫名海屋の絵画
118	堺市博物館	堺市博物館研究報告 第39号
119	京都大学総合博物館	総合博物館 年報 令和元年度
120	三重県総合博物館	三重県総合博物館 年報
121	九州国立博物館	三国志
122	九州国立博物館	対馬がつなぐ仏の教え 版経 東漸
123	九州国立博物館	筑紫の神と仏
124	九州国立博物館	更紗 生命の花さく布
125	九州国立博物館	室町将軍 戦乱と美の足利十五代
126	九州国立博物館	縄文大国 やまなし
127	九州国立博物館	平成18-20年度 文化財修理報告
128	九州国立博物館	東風西声
129	九州国立博物館	文化財よ永遠に 住友財団修復助成30年記念
130	東京富士美術館	フランス絵画の精華 大様式の形成と変化
131	和歌山県立博物館	戦乱のなかの熊野 - 紀南の武士と城館 -
132	和歌山県立博物館	研究紀要 2020.3
133	大阪府立狭山池博物館	発掘された土木技術 大和川流域の開発と水制
134	大阪府立狭山池博物館	研究報告 2020.11
135	松代文化施設等管理事務所	真田家旧蔵 資料目録 - 調度1 -
136	松代文化施設等管理事務所	年報 松代 第33号 (2019年)
137	真田宝物館	松代藩文武学校
138	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	しきしまの大和へ
139	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	明治から戦前期の教育資料 奈良女子高等師範学校と京都高等工芸学校
140	京都府立丹後郷土資料館	天橋立と丹後国分寺
141	滋賀大学経済学部附属資料館	地域とともに歩む 彦根高等商業学校
142	国立科学博物館	ミルシル
143	大山崎町歴史資料館	描かれた山崎合戦 ～秀吉・光秀と合戦像の変遷～
144	龍谷大学文学部博物館実習室	日本のお酒物語 - 神代から現代へ -
145	鹿児島大学総合研究博物館	オウムガイ自生海域の調査記録 研究報告
146	大阪大学大学院情報科学研究科	大阪大学大学院情報科学研究科 年報
147	東北福祉大学芹沢銈美術工芸館	芹沢銈美術工芸館 年報2019
148	阪急文化財団	阪急文化研究 年報
149	学習院大学学芸員課程委員会	学芸員学習院大学学芸員課程 2020
150	BB プラザ美術館	BB プラザ美術館 10年の成果 2009-2018

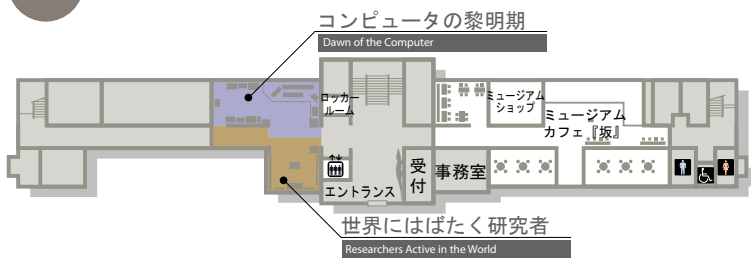
No.	寄贈者	書名
151	若狭歴史博物館	特別展 金色の煌めき 金に彩られた若狭のたから
152	若狭歴史博物館	館報 令和元年度
153	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報 令和元年度
154	長野県埋蔵文化財センター	飯田市 羽場権現堂遺跡 発掘調査報告書
155	たばこと塩の博物館	メアシャム 白い女神
156	大阪歴史博物館	特別展 理想 桃山刀剣界の雄
157	大阪歴史博物館	麒麟がくる NHK 大河ドラマ 特別展
158	帝京大学総合博物館	企画展 古代多摩に生きたエミシの謎を追い
159	帝京大学総合博物館	企画展 理工学部ラボのなか！ -コトワリとワザの探求-
160	東京藝術大学	R2年度 東京藝術大学 卒業・修了作品集
161	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	泉州岸和田の宗教文化 -高僧伝と寺社縁起-
162	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	助左衛門 五代記
163	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀要
164	佐賀大学芸術地域デザイン学部	美術と社会の時間
165	大阪市立東洋陶磁美術館	韓国陶磁研究報告 「耀州窯青磁と高麗」
166	和歌山県立自然博物館	自然博物館だより
167	同志社大学歴史資料館	MUSEUM
168	南山大学人類学博物館紀要	博物館だより
169	KYOTO EXPERIMENT 事務局	京都国際舞台芸術祭 マガジン
170	和歌山県立自然博物館	自然博物館だより
171	京都大学総合博物館ニュースレター	MUSEUM
172	吹田市立博物館	博物館だより
173	立命館大学国際平和ミュージアム	国際平和ミュージアムだより 新年のご挨拶
174	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	きのみなど
175	西宮市大谷記念美術館	今竹七郎 近代日本デザインのパイオニア
176	和歌山県立博物館	創建 1250 年記念特別展 国宝 粉河寺縁起と粉河寺の歴史
177	きょうと視覚文化振興財団	須田記念 視覚の現場 特集パンデミックと美術
178	国立民族学博物館	特別展 復興を支える地域の文化 3.11 から 10 年
179	京都・大学ミュージアム連携	スポーツと京都
180	懐徳堂研究センター	懐徳堂研究
181	帝京大学総合博物館	帝京大学総合博物館 館報 2018 年度
182	帝京大学総合博物館	帝京大学総合博物館 館報 2017 年度
183	國學院大學博物館	研究報告 2021
184	大阪市立住まいのミュージアム (大阪くらしの今昔館)	研究紀要・館報
185	大阪商業大学商業史博物館	紀要
186	三重県総合博物館	資料叢書
187	三重県総合博物館	年報



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

## 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



### コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

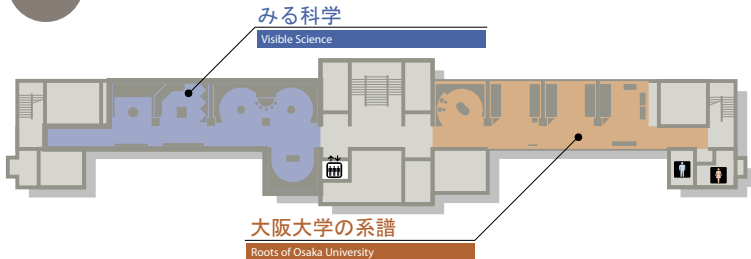
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

### 世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

### ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



### みる科学 Visible Science

### みる科学 Visible Science

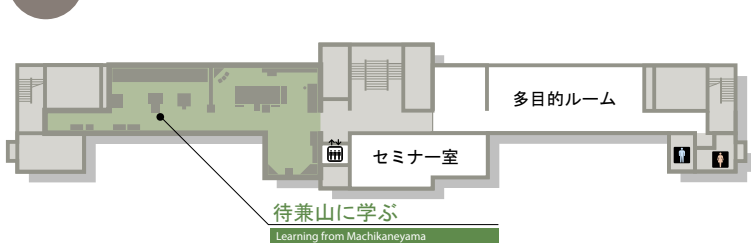
光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

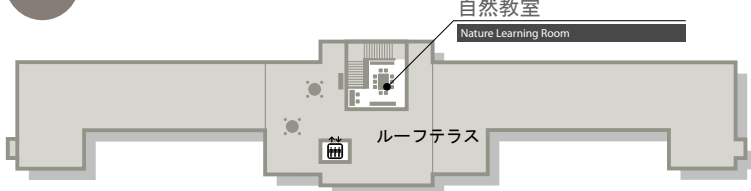


### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



### 自然教室 Nature Learning Room

### 自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

---

大阪大学総合学術博物館  
年報 2020

2021年11月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館  
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13

印刷 株式会社 セイエイ印刷  
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子（アトリエツジムラ）

---







**MOU**  
Museum of Osaka University